マルチモニタ対応プレゼンテーションPCカード

CBMLX2

取扱説明書

78623-01

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、株式会社アイ・オー・データ機器サポートセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当します。
したがって、国外に持ち出す場合には、必ず日本国政府の輸出許可申請など必要な手続きをお取りください。
6) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
7) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
8) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
9) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
10) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
11) お客様は、本製品を一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
12) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
13) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Intelは、米国インテル社の登録商標です。
- Microsoft,Windows,MS,MS-DOSは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

CBMLX2
取扱説明書
2000.Nov.20　78623-01
発　行　　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2000 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

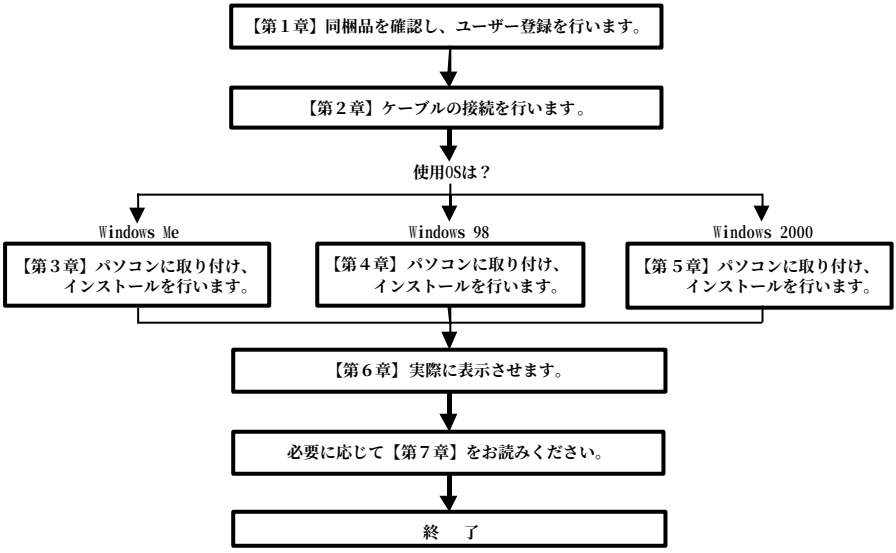
ここにＶｅｒシールをお貼りください。

Ｖｅｒシール

はじめに

このたびは、マルチモニタ対応プレゼンテーションPCカード『CBMLX2』をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

● 本書の見方



● 呼び方

呼び方	意　味
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 98 Operating System Second Edition の総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Windows	Windows Me、Windows 98、Windows 2000の総称

● ハードウェア構成

本書では以下のような機器構成を想定して説明しています。構成の相違点を確認しながら読み進めてください。

A：フロッピーディスク装置3.5インチ（1.44Mバイト/720Kバイト）
C：ハードディスク装置（ご使用になるOSがインストール済みで起動可能）
D：CD-ROMドライブ

● 本製品の特徴

・さまざまな表示方法が可能

Windowsのマルチモニタ機能を利用して、ノートパソコンの液晶画面とは別に、本製品に接続した液晶プロジェクター等をセカンダリモニタとして使用できます。さらに、ディスプレイセレクトを使用することで、本製品に接続した液晶プロジェクタ等をプライマリモニタとして表示したり、ノートパソコンの液晶画面とまったく同じ画面を表示させることができます。

・デジタル映像出力機器とも接続可能

・DirectDraw対応※

DirectDraw対応により、WindowsのDirectDraw対応アプリケーションが動作します。

・Direct3D対応※

ハイカラーでハードウェアDirect3Dが使用できます。

・Silicon Motion社Lynx3DM4搭載

本来外部にあるメモリを4Mバイト内蔵し、ハードウェア3Dアクセラレーション機能を持つLynx3DM4を搭載しました。

※ Windows 98の場合はあらかじめDirectX6以降のインストールが必要です。
Windows Me、Windows 2000の場合は必要ありません。

もくじ

はじめに..... i
目次..... iv

第1章 ご使用になる前に…… 1
1．箱を開けたら …… 2
2．動作環境 …… 7
3．取り扱いおよび使用上の注意 …… 8

第2章 映像出力機器との接続…… 11
1．接続 …… 12

第3章 Windows Me で使用するには …… 15
1．本製品をパソコンに接続する前に …… 16
2．インストール …… 20
3．インストール終了後の確認 …… 26

第4章 Windows 98 で使用するには …… 29
1．本製品をパソコンに接続する前に …… 30
2．インストール …… 34
3．インストール終了後の確認 …… 41

第5章 Windows 2000で使用するには …… 43
1．本製品をパソコンに接続する前に …… 44
2．インストール …… 47
3．インストール終了後の確認 …… 55

第6章 いろいろな表示方法…… 57
1．ディスプレイセレクトで表示 …… 58
2．セカンダリモニタとして表示 …… 66

第7章 ディスプレイエフェクトを使おう…… 71
1．ディスプレイエフェクトとは …… 72
2．機能の概要 …… 74

ふろく
困った時には …… 94
用語解説 …… 99
仕様 …… 102

サポートセンターへのお問い合わせ……106
保証について……107
サポートソフトのバージョンアップ……108
修理について……109

第1章

ご使用になる前に

この章はCBMLX2をご使用になる前に必ずお読みください。

1．箱を開けたら 2ページ

本製品の同梱構成品を確認してください。

2．動作環境 7ページ

本製品の対応機種および対応OS等を説明します。

3．取り扱いおよび使用上の注意 8ページ

本製品を使う際の注意事項です。

1．箱を開けたら

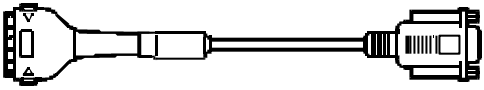
● 同梱構成品

箱の中には以下のものが入っています。

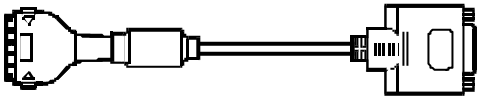
□にチェックをつけながら、ご確認ください。



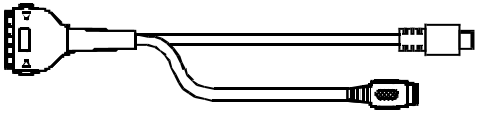
□ CBMLX2



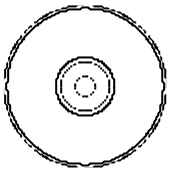
□ アナログRGB用ケーブル（20cm）



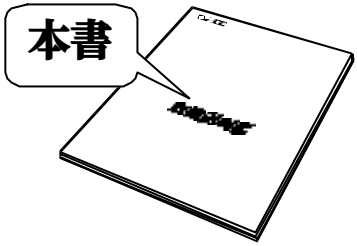
□ デジタル用ケーブル（20cm）



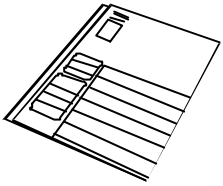
□ ビデオ・Sビデオ用ケーブル（10cm）



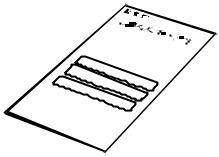
☐ CBMLX2サポートソフト（CD-ROM）



☑ 取扱説明書



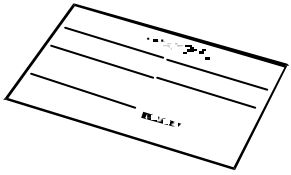
☐ ユーザー登録カード



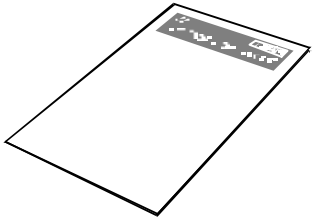
☐ Verシール



☐ ハードウェアシリアルNo.シール



☐ ハードウェア保証書



☐ 『安全で快適にお使いいただくために』

万一、不足がございましたら弊社サポートセンターまでお知らせください。

箱･梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご利用ください。

● DirectXについて

DirectDraw、およびDirect3D対応アプリケーションをご使用になるには、DirectX6以降をインストールする必要があります。
CBMLX2サポートソフト内にDirectX7（Windows 98用DirectX7.0aランタイムモジュール）が収録されています。

▼ DirectX7セットアップ方法

CBMLX2サポートソフト内の[DIRECTX7]フォルダにあるDXSETUP.EXEを実行します。

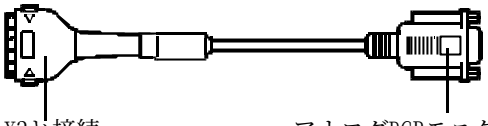
- **DirectX7はサービス品につき、弊社ではサポート致しかねます。予めご了承ください。**
- **Windows Me、およびWindows 2000の場合は、DirectXをインストールする必要はありません。**

● 専用変換ケーブル

付属の各ケーブルの用途をご確認ください。

・アナログRGB用ケーブル

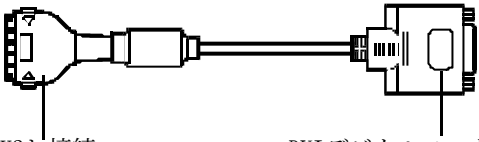
アナログRGBモニタへの接続に使用します。



CBMLX2と接続　　アナログRGBモニタと接続

・デジタル用ケーブル

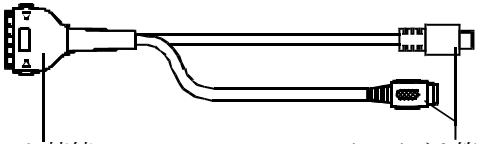
DVIデジタルモニタへの接続に使用します。



CBMLX2と接続　　DVIデジタルモニタと接続

・ビデオ・S ビデオ用ケーブル

ビデオ入力端子を持った機器に接続します。



CBMLX2と接続　　テレビ、ビデオ等と接続

付属ケーブル以外のものをご使用になると、CBMLX2を破損するおそれがあります。
必ず付属のケーブルをご使用ください。

● ユーザー登録について

1 「ハードウェアシリアルNo.シール」を所定の位置に貼ります。

添付のハードウェアシリアルNo.シールを、ユーザー登録カード、ハードウェア保証書に貼ってください。

2 ユーザー登録を行います。

ユーザー登録にはオンライン登録と、ハガキ登録の2通りがあります。
いずれかの方法で登録を行ってください。

● オンライン登録(http://www.iodata.co.jp/regist/)

インターネットに接続できる環境をお持ちの場合はこちらでユーザー登録を行ってください。
上記のアドレスにある「オンラインユーザー登録」のフォームにて、ユーザー登録を行ってください。
オンライン登録後、お手元のユーザー登録カードには、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

● ハガキ登録

ユーザー登録カードに、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。

ユーザー登録カードによる登録の場合、必要事項のご記入もれや必要なシールの貼り忘れがあった場合は、ユーザー登録できません。必ずご確認ください。

2．動作環境

● 対応機種

CardBusスロット搭載の以下の機種

・NEC PC98-NXシリーズ

・DOS/Vマシン

・対応機種の詳細については、弊社ホームページをご覧ください。
・弊社製CardDockシリーズはCardBus対応ではありませんので、ご使用いただけません。

● 動作環境

・CPU　：Pentium 133MHz以上

・メモリ：32Mバイト以上（64Mバイト以上推奨）

● 対応OS

・Windows Me

・Windows 98（Second Edition含む）

・Windows 2000

● 対応API

・Direct3D（ハードウェアアクセラレートはハイカラー時に動作します。）

・DirectDraw（256色/ハイカラー時に動作します。）

3．取り扱いおよび使用上の注意

● 本製品は非常に精密にできておりますので、以下の注意事項を守ってお使いください。
  ・ 高温、多湿、低温の場所に放置しないでください。
  ・ コネクタ部分に金属等を差し込まないでください。
  ・ 無理な加重をかけないでください。
  ・ 濡らさないでください。
  ・ 落とさないでください。
  ・ 分解や改造などをしないでください。
  ・ 煙が出たり、変な臭いがする場合は、ただちにパソコンや周辺機器の電源を切り、電源ケーブル等もコンセントから抜いてください。
    その後、必ず販売店までご連絡ください。

● カードは大変熱くなります。使用後の抜き差しの際、火傷をしない様、充分気を付けてください。

● 使用上の注意
  ・ 本製品を２枚同時に使用することはできません。
  ・ CardBus用PCカードは、ご使用のパソコンにより複数同時に使用できない場合があります。
    その場合、他のCardBus用PCカードと同時には使用しないでください。
  ・ **本製品カードと他の16bit PCカードを同時に使用する場合**
    PCカードスロットに上記のカードを同時に挿入したままOSを起動すると、OSの起動中に止まってしまう場合があります。
    その場合、**他のＰＣカード**をPCカードスロットから抜いた状態でOSを起動し、OS起動後に**他のＰＣカード**をPCカードスロットに挿入するようにしてください。

・ パソコン本体をバッテリ駆動させている場合、バッテリの残量が少なくなると、本製品の動作が不安定になる場合があります。

・ 使用環境によっては画質や速度が低下する場合があります。

● 本製品は情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づく製品です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。



MEMO

第2章

映像出力機器との接続

この章では、本製品とモニタ等の映像出力機器を接続するまでを説明します。

本製品とパソコンの接続は、「CBMLX2サポートソフト」をインストールする際に行います。ここではまだPCカードスロットへの挿入は行わないでください。

1．接続

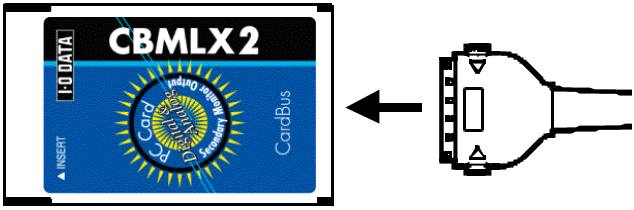
12ページ

本製品とケーブル、モニタや映像出力機器を接続します。

1．接続

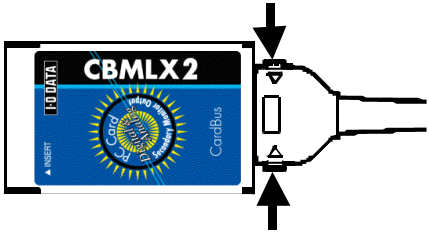
1　本製品に付属の専用変換ケーブルを接続します。

・アナログ接続する場合は「アナログRGB用ケーブル」
・デジタル接続する場合は、「デジタル用ケーブル」
・ビデオ端子（コンポジット端子、およびSビデオ端子）を持つ機器に接続する場合は「ビデオ・Sビデオ用ケーブル」を本製品に接続します。



▼ 本製品から専用変換ケーブルを取り外す場合の注意

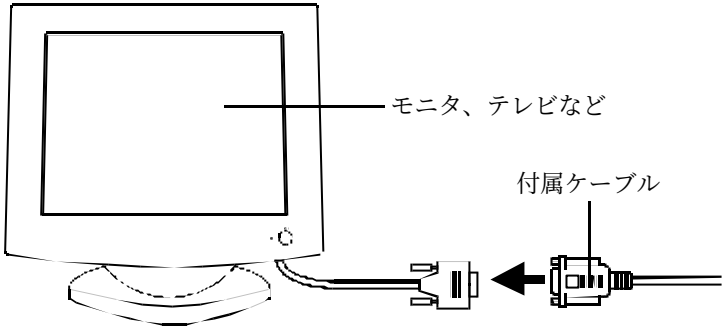
・両側のサイドスイッチを押しながら引き抜きます。



・動作中は絶対にケーブルを取り外さないでください。
・本製品から専用変換ケーブルを外す際は、水平に抜いてください。

2 CBMLX2に接続したケーブルのもう一端を、映像出力機器と接続します。

下図はアナログRGB用ケーブルを使用する場合の接続例です。



・付属の3つのケーブルを同時に使用することはできません。必ずいずれか1本のみの接続となります。
・DFP仕様のデジタル映像機器を接続する場合は、別途変換コネクタ「MA-DV/DF」をお買い求めください。ケーブルは付属の「デジタル用ケーブル」を使用してください。

Windows Meの場合 → **15ページ**

Windows 98の場合 → **29ページ**

Windows 2000の場合 → **43ページ**

MEMO

第3章

Windows Meで使用するには

この章では、Windows Meで本製品を使用する方法について説明します。

1．本製品をパソコンに接続する前に 16ページ

インストールをする前にご使用の環境を確認します。

2．インストール 20ページ

インストール手順を説明します。

3．インストール終了後の確認 26ページ

インストールが正常に行われたか確認します。

1． 本製品をパソコンに接続する前に

ご使用のパソコンがCardBus対応のPCカードを使用できる状態にあるかどうかを確認します。本製品をパソコン本体に取り付ける前に確認してください。

● CardBus対応ドライバの確認

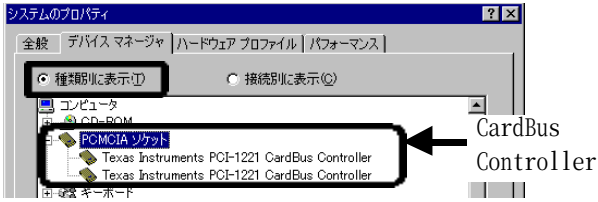
1 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[システムのプロパティ]画面の[デバイスマネージャ]タブをクリックします。**

3 **[PCMCIA ソケット]下にCardBus対応ドライバ（CardBus Controller）が表示されていることを確認します。**

[CardBus]という表記が含まれていることを確認します。
（CardBus Controllerの名称はご使用のパソコンにより異なります。）

▼ 表示例



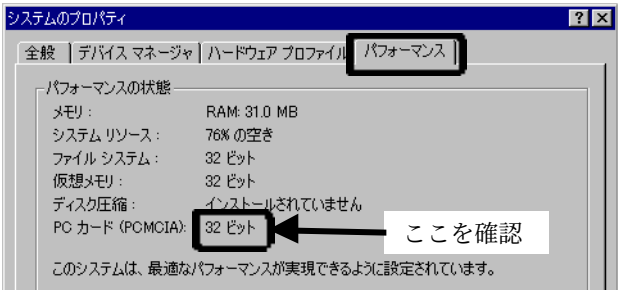
表示がない

CardBus対応機種ではありません。ただし、パソコンのBIOS設定でCardBus対応に切り替えられる場合があります。詳細については、パソコンメーカーにお問い合わせください。
PCカードスロットには「CardBus」モード、「PCIC互換」モード、「PCIC Compatible」モードといった動作モードがあります。

● PCカードのドライバの確認

1 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[パフォーマンス]タブをクリックし、[PCカード（PCMCIA）]が[32ビット]であることを確認します。**



32ビットになっていない

[コントロールパネル]内の[PCカード]アイコンをダブルクリックし、PCカードウィザードの指示に従ってください。
詳細については、パソコンメーカーにお問い合わせください。

● パソコンメーカー独自の省電力機能が働かないように設定する

「パソコンメーカー独自の省電力機能」は無効にしておいてください。方法については、パソコン本体の取扱説明書をご参照ください。

パソコンによっては、メーカー独自の省電力機能、またはオートパワーダウン機能等（設定された時間内に何も操作がなかった場合、自動的にパソコンの電源を切る機能）を搭載したものがあります。この機能が働くと、本製品への電源供給も切られてしまう場合があり、誤動作の原因になります。

- **CBMLX2はWindows Meがサポートしているacpi機能に対応しています。**
- **パソコン本体がacpi機能に対応していない場合はacpi機能はご使用いただけません。**

● インストールの前に

インストール作業では、本製品と CD-ROM ドライブを同時に使用します。これが可能かどうか、パソコンのハードウェア仕様をご確認ください。

PCカードスロットは2つ以上ある ⇒ 次ページへ進みます。

・CD-ROMドライブは、PCカードスロットで使う
・PCカードスロットは1つのみ
・内蔵CD-ROMドライブはない ⇒ 下記の作業例を参考に「CBMLX2サポートソフト」の内容をハードディスクにコピーします。

▼ CBMLX2 サポートソフトのコピー作業例

1. **CD-ROM ドライブを使用可能な状態にします。**
2. **エクスプローラでハードディスクを選択し、[ファイル]→[新規作成]→[フォルダ]をクリックします。**
3. **表示された[新しいフォルダ]に適当な名前をつけます。**
4. **CD-ROM ドライブに「CBMLX2 サポートソフト」をセットします。**
5. **エクスプローラでフロッピーディスクドライブを選択し、[編集]→[すべて選択]をクリックします。**
6. **[編集]→[コピー]をクリックします。**
7. **エクスプローラで *3*で作成したフォルダを開き、[編集]→[貼り付け]をクリックします。**
8. **CD-ROM ドライブを取り外します。**
9. **以下にご注意の上、次ページへ進みます。**
   - CD-ROM ドライブを指定する箇所では ***3***で作成したフォルダを指定してください。
   - CBMLX2 サポートソフトをセットするように記述している個所は読み飛ばしてください。

2．インストール

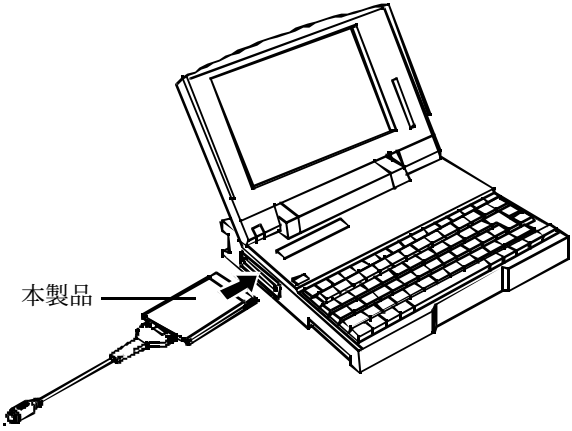
「CBMLX2サポートソフト」をインストールします。

1　Windows Meを起動します。

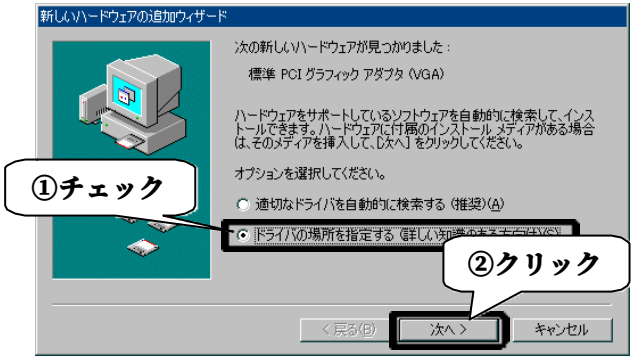
2　本製品をPCカードスロットに挿入します。

Windows Meが起動していることを確認し、ラベルが貼ってある面を上にしてパソコンのPCカードスロットへまっすぐに差し込みます。

「ピポッ」と音がすれば、本製品は正しく認識されたことになります。



3　初めて本製品をPCカードスロットに挿入した場合、以下の画面が表示されます。
[ドライバの場所を指定する]をチェックし、［次へ］ボタンをクリックします。



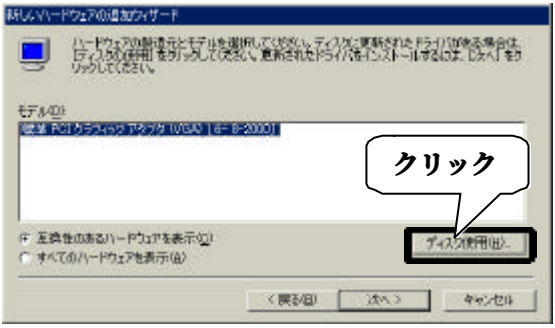
本製品のインストールが正常に終了すると次回から *3* の画面は表示されません。
インストールを終了していないのに、本製品を挿入してもこの画面が表示されない場合は、以下の原因が考えられます。

- 本製品をPCカードスロットに正しく挿入していない。
  - ・本製品の向きが違う
  - ・PCカードスロットに奥まで挿入していない

4 **[特定の場所にあるすべての・・・]をチェックして［次へ］ボタンをクリックします。**



5 **［ディスク使用］ボタンをクリックします。**

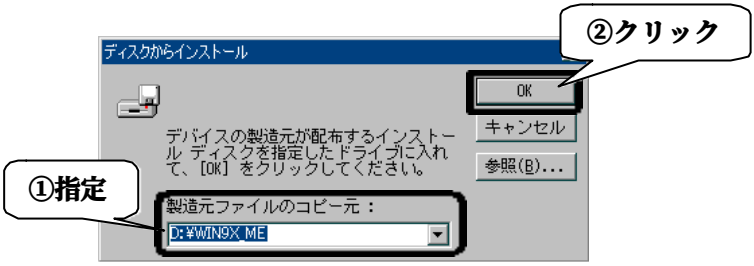


6 **「CBMLX2サポートソフト」をCD-ROMドライブにセットします。**

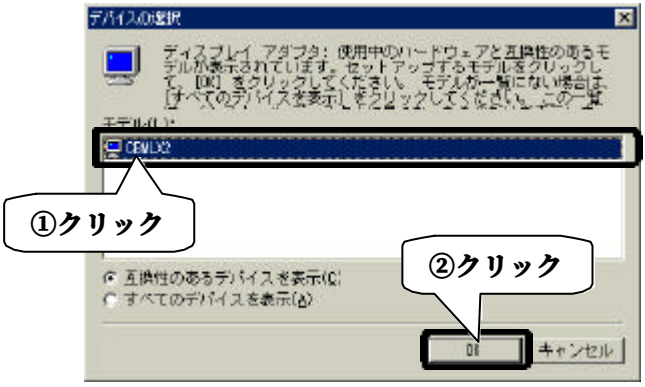
7 [製造元ファイルのコピー元]でCD-ROMドライブのWIN9X_MEフォルダを指定し、［OK］ボタンをクリックします。

[参照]ボタンをクリックして指定する方法もあります。（次ページ参照）

例） D:\WIN9X_ME　（CD-ROMドライブがDの場合）



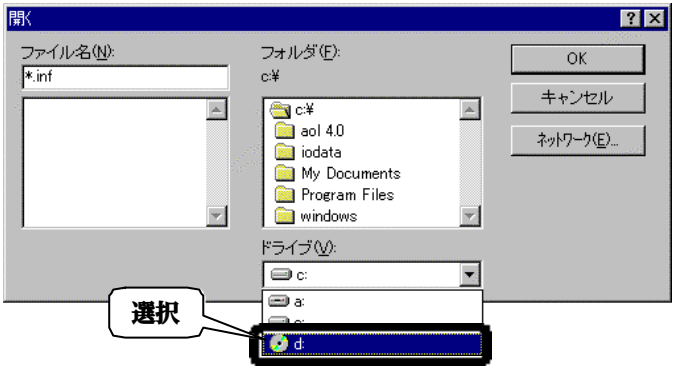
8 [CBMLX2]をクリックし［OK］ボタンをクリックします。



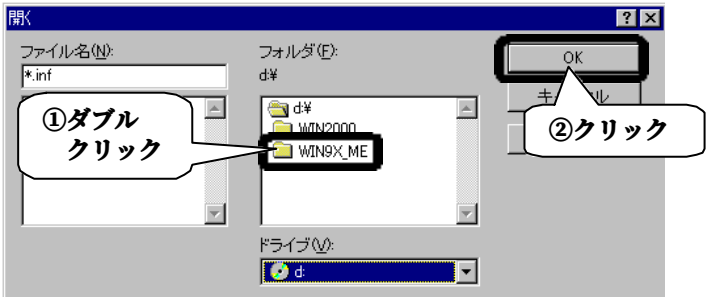
≪[参照] ボタンをクリックして指定する方法≫

1 [参照]ボタンをクリックします。

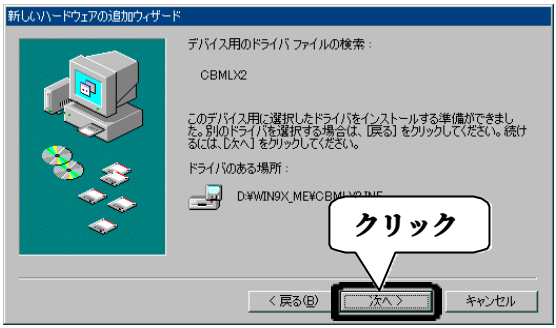
2 [ドライブ]でCD-ROMドライブを選択します。



3 [フォルダ]で[WIN9X_ME]をダブルクリックし、[OK]ボタンをクリックします。



9　［次へ］ボタンをクリックします。



10　［はい］ボタンをクリックします。



11　「CBMLX2サポートソフト」をCD-ROMドライブから取り出します。

以上でインストールは完了です。
次ページの【3.インストール終了後の確認】を参照して、インストールが正常に行われたかを確認してください。

・Windows Me使用中にCBMLX2をPCカードスロットから取り外す場合は以下のいずれかの方法で取り外してください。
① ［コントロールパネル］→［PCカード(PCMCIA)］を順に開き、［PCカード(PCMCIA)のプロパティ］画面でCBMLX2を停止した後に取り外す。
② タスクトレーの［PCカード(PCMCIA)］でCBMLX2を中止した後に取り外す。
・ケーブルを引っ張って取り外さないでください。
・プライマリモニタモード時は取り出せません。
・Windows Me使用中にCBMLX2をPCカードスロットから取り外す場合は、CBMLX2が非常に高温になっている場合がありますので、注意してお取り外しください。火傷などの原因となるおそれがあります。

3．インストール終了後の確認

ここでは、Windows Me上で、本製品が正常に認識されているかどうかの確認方法について説明します。インストール終了後、必ず確認してください。

1　[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]をクリックします。

2　[デバイスマネージャ]タブで、[ディスプレイアダプタ]をダブルクリックします。

3　[CBMLX2]の頭に！マークや、×マークが付いていないことを確認します。



4　[CBMLX2]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

5 [CBMLXのプロパティ]の[リソース］タブをクリックし、競合するデバイスがないことを確認します。

競合するデバイスがなければ正常です。



CBMLX2に接続したディスプレイに表示がでない

【困った時には】98ページ参照

MEMO

第4章

Windows 98で使用するには

この章では、Windows 98で本製品を使用する方法について説明します。

1．本製品をパソコンに接続する前に 30ページ

インストールをする前にご使用の環境を確認します。

2．インストール 34ページ

インストール手順を説明します。

3．インストール終了後の確認 41ページ

インストールが正常に行われたか確認します。

1． 本製品をパソコンに接続する前に

ご使用のパソコンがCardBus対応のPCカードを使用できる状態にあるかどうかを確認します。本製品をパソコン本体に取り付ける前に確認してください。

● CardBus対応ドライバの確認

1 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[システムのプロパティ]画面の[デバイスマネージャ]タブをクリックします。**

3 **[PCMCIA ソケット]下にCardBus対応ドライバ（CardBus Controller）が表示されていることを確認します。**

[CardBus]という表記が含まれていることを確認します。
（CardBus Controllerの名称はご使用のパソコンにより異なります。）

▼ 表示例



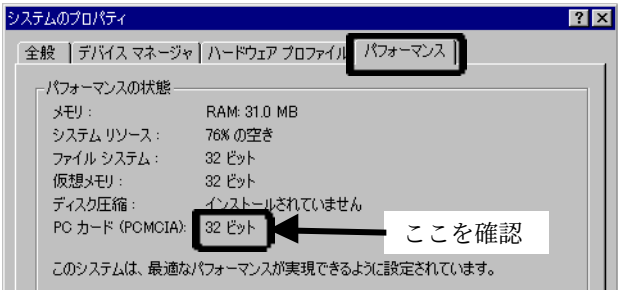
表示がない

CardBus対応機種ではありません。ただし、パソコンのBIOS設定でCardBus対応に切り替えられる場合があります。詳細については、パソコンメーカーにお問い合わせください。
PCカードスロットには「CardBus」モード、「PCIC互換」モード、「PCIC Compatible」モードといった動作モードがあります。

● PCカードのドライバの確認

1 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[パフォーマンス]タブをクリックし、[PCカード（PCMCIA）]が[32ビット]であることを確認します**



32ビットになっていない

[コントロールパネル]内の[PCカード]アイコンをダブルクリックし、PCカードウィザードの指示に従ってください。
詳細については、パソコンメーカーにお問い合わせください。

● パソコンメーカー独自の省電力機能が働かないように設定する

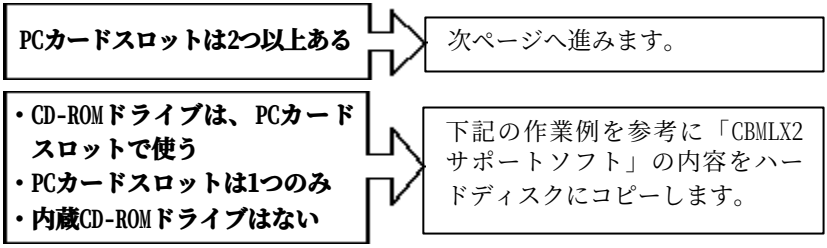
「パソコンメーカー独自の省電力機能」は無効にしておいてください。方法については、パソコン本体の取扱説明書をご参照ください。

パソコンによっては、メーカー独自の省電力機能、またはオートパワーダウン機能等（設定された時間内に何も操作がなかった場合、自動的にパソコンの電源を切る機能）を搭載したものがあります。この機能が働くと、本製品への電源供給も切られてしまう場合があり、誤動作の原因になります。

- **CBMLX2はWindows 98がサポートしているACPI機能に対応しています。**
- **パソコン本体がACPI機能に対応していない場合はACPI機能はご使用いただけません。**

● インストールの前に

インストール作業では、本製品と CD-ROM ドライブを同時に使用します。これが可能かどうか、パソコンのハードウェア仕様をご確認ください。



▼ CBMLX2 サポートソフトのコピー作業例

1. CD-ROM ドライブを使用可能な状態にします。
2. エクスプローラでハードディスクを選択し、[ファイル]→[新規作成]→[フォルダ]をクリックします。
3. 表示された[新しいフォルダ]に適当な名前をつけます。
4. CD-ROM ドライブに「CBMLX2 サポートソフト」をセットします。
5. エクスプローラでフロッピーディスクドライブを選択し、[編集]→[すべて選択]をクリックします。
6. [編集]→[コピー]をクリックします。
7. エクスプローラで *3* で作成したフォルダを開き、[編集]→[貼り付け]をクリックします。
8. CD-ROM ドライブを取り外します。
9. 以下にご注意の上、次ページへ進みます。
   - CD-ROM ドライブを指定する箇所では *3* で作成したフォルダを指定してください。
   - CBMLX2 サポートソフトをセットするように記述している個所は読み飛ばしてください。

2．インストール

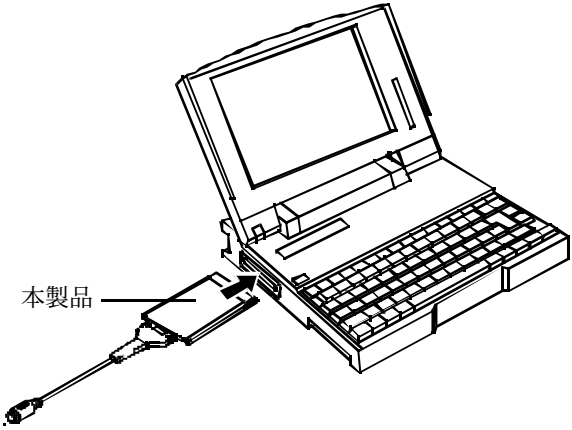
「CBMLX2サポートソフト」をインストールします。

1　Windows 98を起動します。

2　本製品をPCカードスロットに挿入します。

Windows 98が起動していることを確認し、ラベルが貼ってある面を上にしてパソコンのPCカードスロットへまっすぐに差し込みます。

「ピポッ」と音がすれば、本製品は正しく認識されたことになります。



3　初めて本製品をPCカードスロットに挿入した場合、以下の画面が表示されます。
［次へ］ボタンをクリックします。



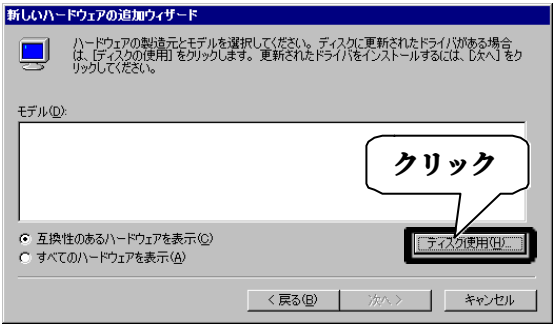
本製品のインストールが正常に終了すると次回から *3* の画面は表示されません。
インストールを終了していないのに、本製品を挿入してもこの画面が表示されない場合は、以下の原因が考えられます。

- 本製品をPCカードスロットに正しく挿入していない。
  - ・本製品の向きが違う
  - ・PCカードスロットに奥まで挿入していない
- PCｶｰﾄﾞ(PCMCIA)のドライバが32ビットになっていない。
  【PCカードのドライバの確認】(31ページ)を参照してください。

4 「特定の場所にある･･･」をチェックして［次へ］ボタンをクリックします。



5 ［ディスク使用］ボタンをクリックします。

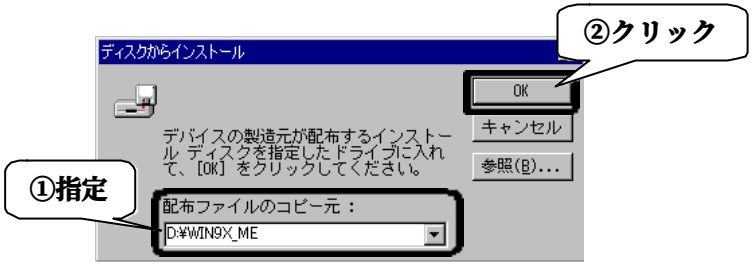


6 「CBMLX2サポートソフト」をCD-ROMドライブにセットします。

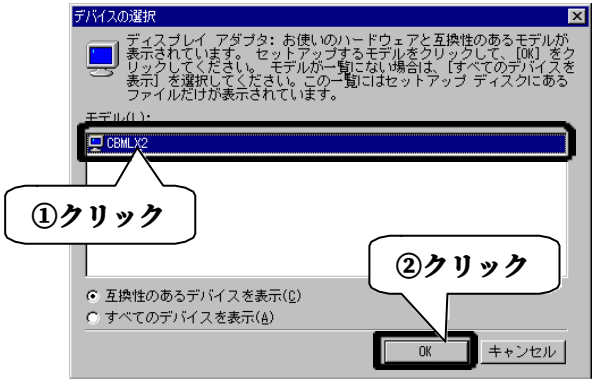
7 [配布ファイルのコピー元]でCD-ROMドライブのWIN9X_MEフォルダを指定し、［OK］ボタンをクリックします。

[参照]ボタンをクリックして指定する方法もあります。（次ページ参照）

例） D:\WIN9X_ME　（CD-ROMドライブがDの場合）



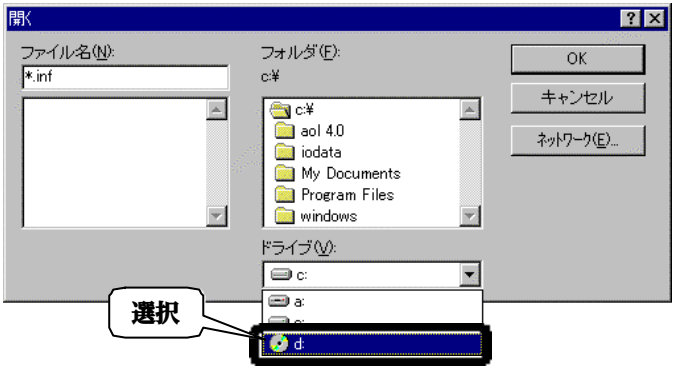
8 [CBMLX2]をクリックし［OK］ボタンをクリックします。



≪[参照] ボタンをクリックして指定する方法≫

1 [参照]ボタンをクリックします。

2 [ドライブ]でCD-ROMドライブを選択します。

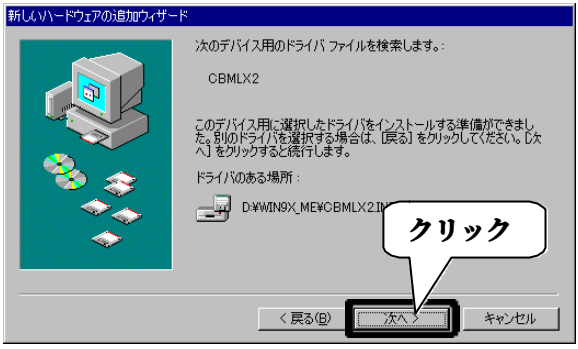


3 [フォルダ]で[WIN9X_ME]をダブルクリックし、[OK]ボタンをクリックします。



9　［次へ］ボタンをクリックします。

ファイルのコピーを開始します。



10　ファイルのコピー中、[現在のファイルをそのまま使いますか？]と表示される場合は、[はい]ボタンを選択します。

11　［完了］ボタンをクリックします。

Windowsが再起動します。



12 「CBMLX2サポートソフト」をCD-ROMドライブから取り出します。

以上でインストールは完了です。
次ページの【3.インストール終了後の確認】を参照して、インストールが正常に行われたかを確認してください。

・Windows 98使用中にCBMLX2をPCカードスロットから取り外す場合は以下のいずれかの方法で取り外してください。
① [コントロールパネル]→[PCカード(PCMCIA)]を順に開き、[PCカード(PCMCIA)のプロパティ]画面でCBMLX2を停止した後に取り外す。
② タスクトレーの[PCカード(PCMCIA)]でCBMLX2を中止した後に取り外す。
・ケーブルを引っ張って取り外さないでください。
・プライマリモニタモード時は取り出せません。
・Windows 98使用中にCBMLX2をPCカードスロットから取り外す場合は、CBMLX2が非常に高温になっている場合がありますので、注意してお取り外しください。火傷などの原因となるおそれがあります。

3．インストール終了後の確認

ここでは、Windows 98上で、本製品が正常に認識されているかどうかの確認方法について説明します。インストール終了後、必ず確認してください。

1 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[システム]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[デバイスマネージャ]タブで、[ディスプレイアダプタ]をダブルクリックします。**

3 **[CBMLX2]の頭に！マークや、×マークが付いていないことを確認します。**



4 **[CBMLX2]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。**

5 [CBMLXのプロパティ]の[リソース］タブをクリックし、競合するデバイスがないことを確認します。

競合するデバイスがなければ正常です。



CBMLX2に接続したディスプレイに表示がでない

【困った時には】98ページ参照

第5章

Windows 2000で使用するには

この章では、Windows 2000で本製品を使用する方法について説明します。

1．本製品をパソコンに接続する前に 44ページ

インストールをする前にご使用の環境を確認します。

2．インストール 47ページ

インストール手順を説明します。

3．インストール終了後の確認 55ページ

インストールが正常に行われたか確認します。

1． 本製品をパソコンに接続する前に

ご使用のパソコンがCardBus対応のPCカードを使用できる状態にあるかどうかを確認します。本製品をパソコン本体に取り付ける前に確認してください。

● CardBus対応ドライバの確認

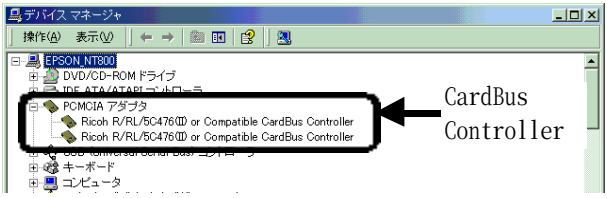
1 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[ハードウェア]タブ→[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。**

3 **[PCMCIA アダプタ]下にCardBus対応のドライバ（CardBus Controller）が表示されていることを確認します。**

[CardBus]という表記が含まれていることを確認します。
（CardBus Controllerの名称はご使用のパソコンにより異なります。）

▼表示例



表示がない

CardBus対応機種ではありません。ただし、パソコンのBIOS設定でCardBus対応に切り替えられる場合があります。詳細については、パソコンメーカーにお問い合わせください。
PCカードスロットには「CardBus」モード、「PCIC互換」モード、「PCIC Compatible」モードといった動作モードがあります。

●パソコンメーカー独自の省電力機能が働かないように設定する

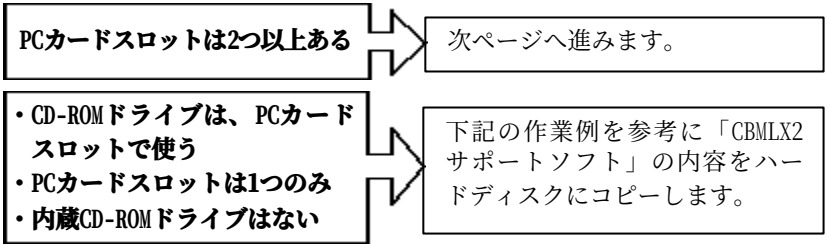
「パソコンメーカー独自の省電力機能」は無効にしておいてください。方法については、パソコン本体の取扱説明書をご参照ください。

パソコンによっては、メーカー独自の省電力機能、またはオートパワーダウン機能等（設定された時間内に何も操作がなかった場合、自動的にパソコンの電源を切る機能）を搭載したものがあります。この機能が働くと、本製品への電源供給も切られてしまう場合があり、誤動作の原因になります。

CBMLX2はWindows 2000の省電力機能には対応していません。省電力機能はWindows 2000内で無効にしてください。方法については、Windows 2000の取扱説明書をご覧ください。

● インストールの前に

インストール作業では、本製品と CD-ROM ドライブを同時に使用します。これが可能かどうか、パソコンのハードウェア仕様をご確認ください。



▼ CBMLX2 サポートソフトのコピー作業例

1. CD-ROM ドライブを使用可能な状態にします。
2. エクスプローラでハードディスクを選択し、[ファイル]→[新規作成]→[フォルダ]をクリックします。
3. 表示された[新しいフォルダ]に適当な名前をつけます。
4. CD-ROM ドライブに「CBMLX2 サポートソフト」をセットします。
5. エクスプローラでフロッピーディスクドライブを選択し、[編集]→[すべて選択]をクリックします。
6. [編集]→[コピー]をクリックします。
7. エクスプローラで *3* で作成したフォルダを開き、[編集]→[貼り付け]をクリックします。
8. CD-ROM ドライブを取り外します。
9. 以下にご注意の上、次ページへ進みます。
   - CD-ROM ドライブを指定する箇所では *3* で作成したフォルダを指定してください。
   - CBMLX2 サポートソフトをセットするように記述している個所は読み飛ばしてください。

2．インストール

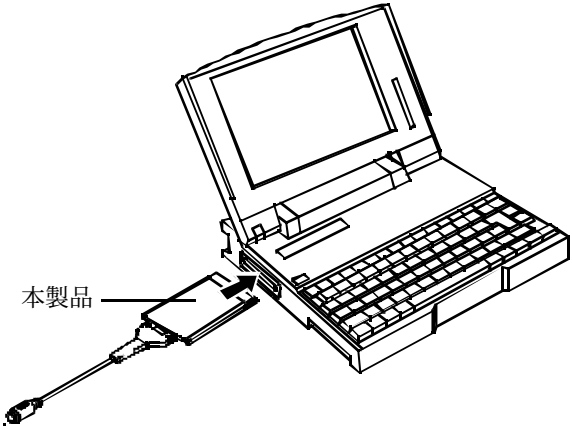
「CBMLX2サポートソフト」をインストールします。

1　Windows 2000を起動します。

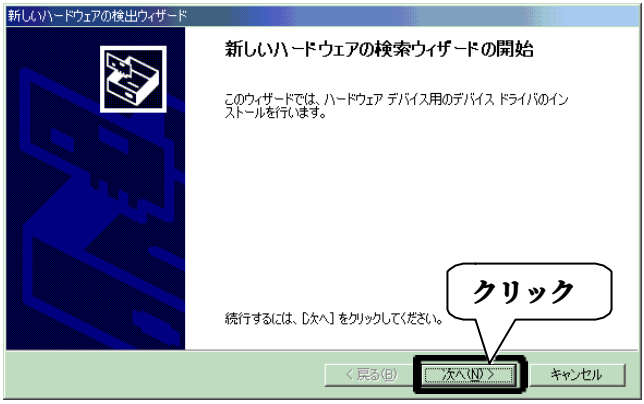
2　本製品をPCカードスロットに挿入します。

Windows 2000が起動していることを確認し、ラベルが貼ってある面を上にしてパソコンのPCカードスロットへまっすぐに差し込みます。

「ピポッ」と音がすれば、本製品は正しく認識されたことになります。



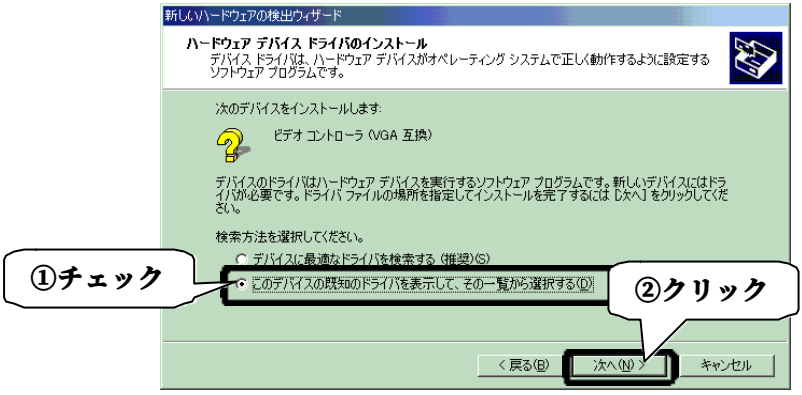
3　初めて本製品をPCカードスロットに挿入した場合、以下の画面が表示されます。
［次へ］ボタンをクリックします。



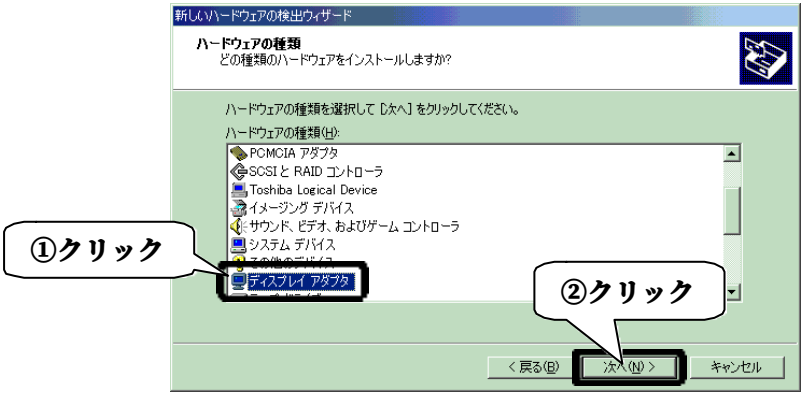
本製品のインストールが正常に終了すると次回から *3* の画面は表示されません。
インストールを終了していないのに、本製品を挿入してもこの画面が表示されない場合は、以下の原因が考えられます。

- **本製品をPCカードスロットに正しく挿入していない。**
  - **本製品の向きが違う**
  - **PCカードスロットに奥まで挿入していない**

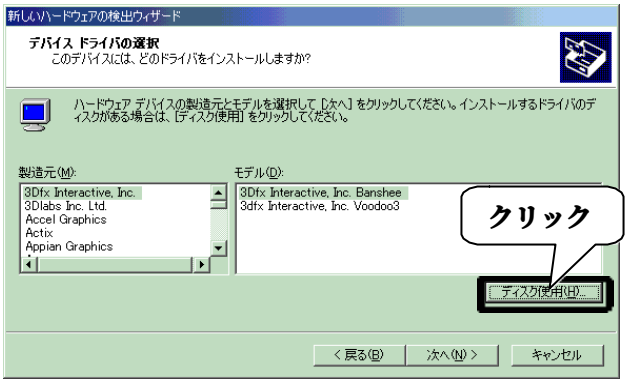
4 **[このデバイスの既知のドライバ・・・]をチェックして[次へ]ボタンをクリックします。**



5 **[ディスプレイアダプタ]をクリックして、［次へ］ボタンをクリックします。**



6　［ディスク使用］ボタンをクリックします。

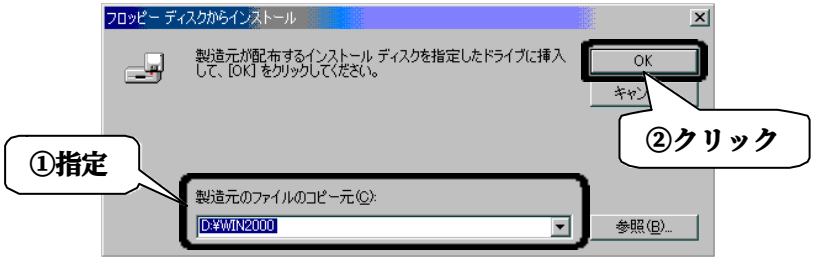


7　「CBMLX2サポートソフト」をCD-ROMドライブにセットします。

8　[製造元のファイルのコピー元]でCD-ROMドライブのWIN2000フォルダを指定し、［OK］ボタンをクリックします。

[参照]ボタンをクリックして指定する方法もあります。（次ページ参照）

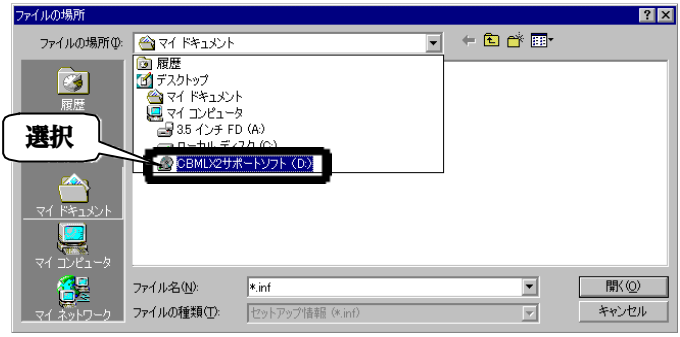
例）D:\WIN2000　　（CD-ROMドライブがDの場合）



≪[参照] ボタンをクリックして指定する方法≫

1 **[参照]ボタンをクリックします。**

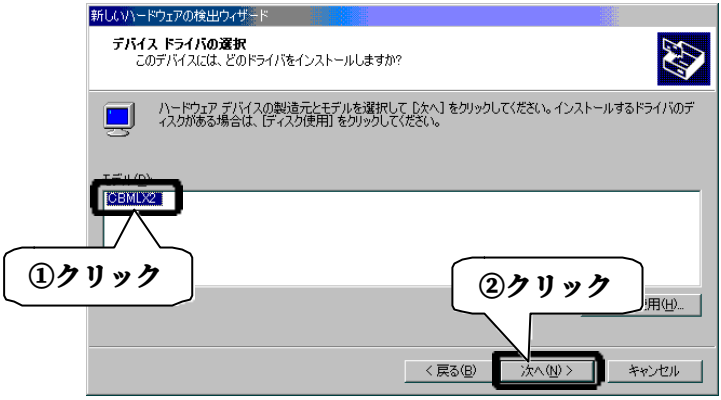
2 **[ファイルの場所]でCD-ROMドライブを選択します。**



3 **[WIN2000]をダブルクリックし、[開く]ボタンをクリックします。**

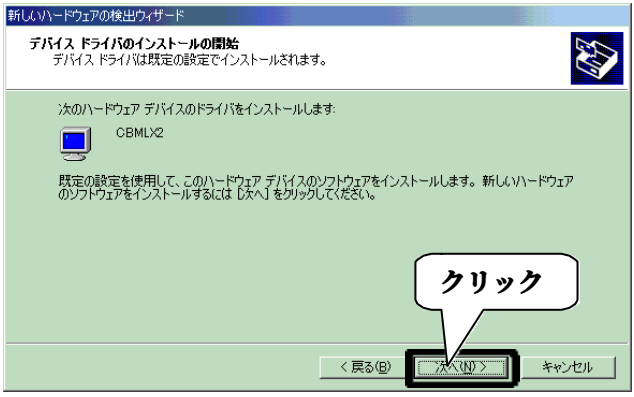


9　[CBMLX2]をクリックし、［次へ］ボタンをクリックします。



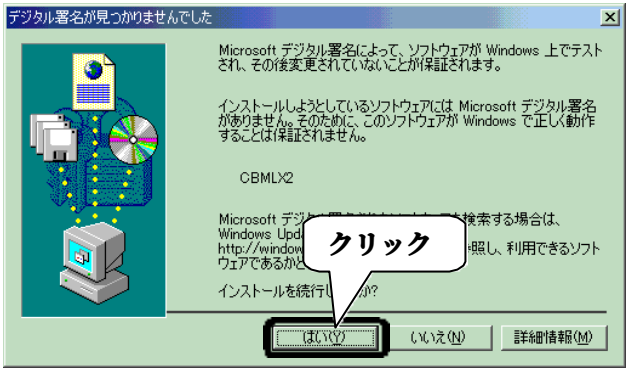
10　［次へ］ボタンをクリックします。

ファイルのコピーを開始します。



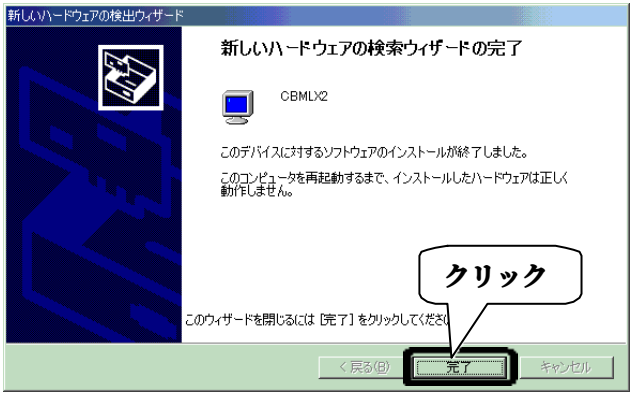
11 [はい]ボタンをクリックします。

ファイルのコピーを開始します。



12 ［完了］ボタンをクリックします。

Windowsが再起動します。



13 「CBMLX2サポートソフト」をCD-ROMドライブから取り出します。

以上でインストールは完了です。
次ページの【3.インストール後の確認】を参照して、インストールが正常に行われたかを確認してください。

・Windows 2000使用中にCBMLX2をPCカードスロットから取り外すことはできません。取り外す場合はWindows 2000を終了し、電源を切った状態で取り外してください。
・ケーブルを引っ張って取り外さないでください。
・Windows 2000使用中にCBMLX2をPCカードスロットから取り外す場合は、CBMLX2が非常に高温になっている場合がありますので、注意して取り外してください。火傷などの原因となるおそれがあります。

3．インストール終了後の確認

ここでは、Windows 2000上で、本製品が正常に認識されているかどうかの確認方法について説明します。インストール終了後、必ず確認してください。ここではその手順について説明します。

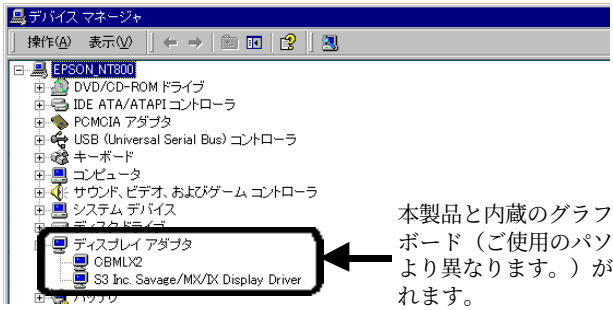
1 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[システム]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[システムのプロパティ]画面の[ハードウェア]タブ→[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。**

3 **[ディスプレイアダプタ]をダブルクリックします。**

4 **[CBMLX2]の頭に！マークや、×マークが付いていないことを確認します。**

付いていなければ正常です。



本製品と内蔵のグラフィックボード（ご使用のパソコンにより異なります。）が表示されます。

上記[CBMLX2]の表示をダブルクリックすると、プロパティが表示されます。この中で、エラーがある旨の表示がでる場合がありますが実際は問題ありません。そのままご使用いただけます。

MEMO

第6章

いろいろな表示方法

この章では、いろいろな表示方法を紹介します。

1．ディスプレイセレクトで表示 58ページ

いろいろな表示方法が可能です。

2．セカンダリモニタとして表示 66ページ

1．ディスプレイセレクトで表示

CBMLX2サポートソフトのインストールが正常に終了していれば、タスクトレーに[ディスプレイセレクト]が常駐しています。

● ディスプレイセレクトの起動方法

1　タスクトレーに常駐している[ディスプレイセレクト]アイコンを左クリックします。



2　[ディスプレイセレクト]が起動します。



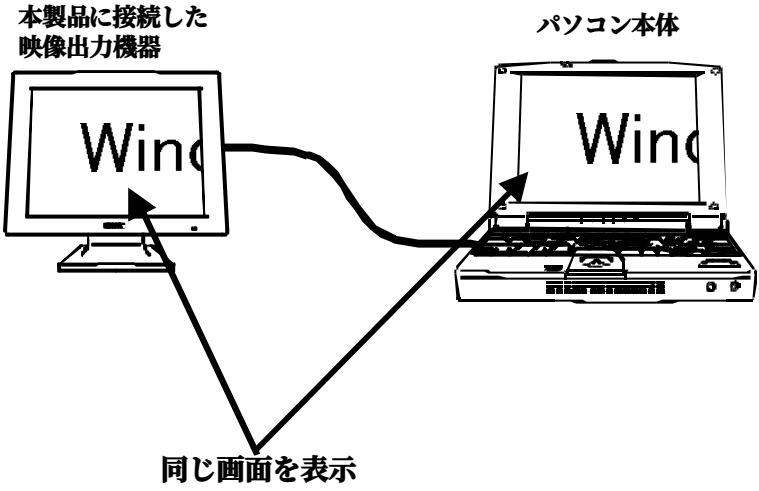
[ディスプレイセレクト]では、さまざまな表示モードを設定することができます。
[画面のプロパティ]では不可能な、プライマリモニタとしての設定も可能です。

● 各モードの特徴

[ディスプレイセレクト]で選択できる各表示モードの特徴を説明します。

● ミラーディスプレイモード

パソコン本体とCBMLX2に接続されたモニタの両方に、同じ画像を同時に表示するモードです。



＜ミラーディスプレイモードご使用上の注意＞

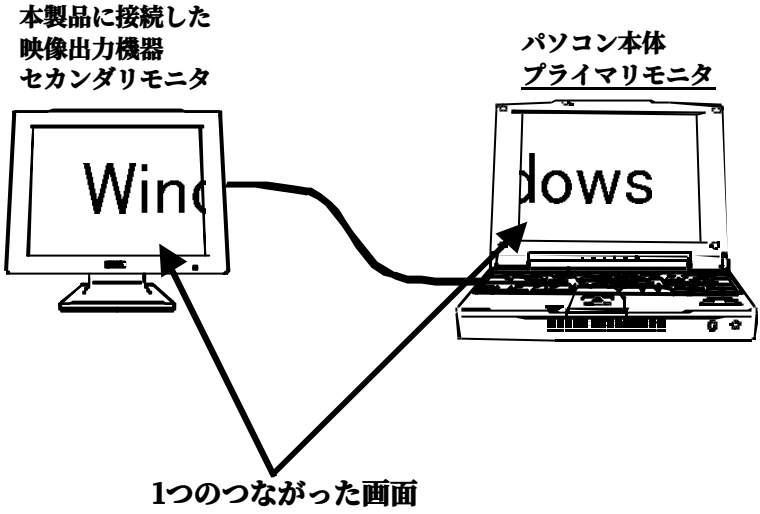
- **ディスプレイエフェクト機能は使用できません。**
- **MPEG動画などのビデオオーバーレイ画面は転送できません。また、描画速度も低下します。**
- **DirectXには対応していません。**
- **Windows 2000をAdministrator権限で起動していない場合、下記の設定はできません。**
  - **ミラーディスプレイモードへの切り替え**
  - **ミラーディスプレイモードから他のモードへの切り替え**

CBMLX2に接続したディスプレイに表示がでない 【困った時には】98ページ参照

１．ディスプレイセレクトで表示

● マルチモニタモード

Windowsがサポートするマルチモニタ機能に対応したモードです。
パソコン本体とCBMLX2に接続されたモニタの両方の画面を使って、仮想的に1つの大きなデスクトップ画面を表示するモードです。

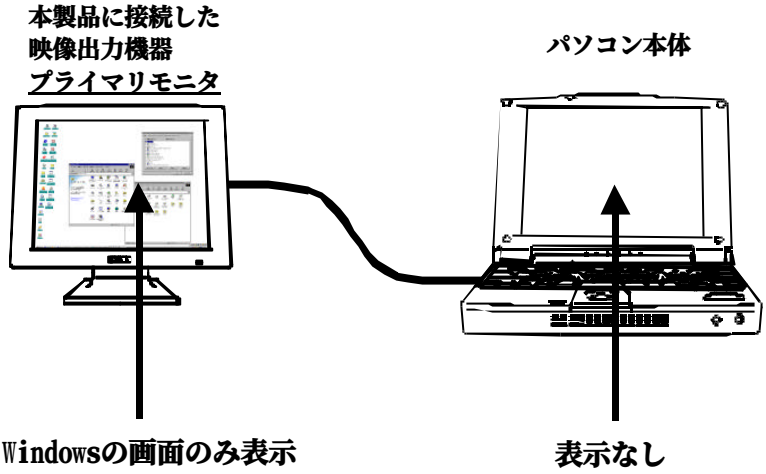


66ページ【2.セカンダリモニタとして表示】では、さらに表示方法を変更する方法を説明しています。

＜マルチモニタモードご使用上の注意＞
- **CBMLX2に接続したモニタがセカンダリモニタになり、パソコン本体側がプライマリモニタになります。逆にはできません。**
- **セカンダリモニタ側では、タスクバーやデスクトップ上のアイコンは表示されません。**

● プライマリモニタモード

CBMLX2に接続されたモニタにWindowsのプライマリモニタ画面を表示するモードです。



＜プライマリモニタモードご使用上の注意＞

- **Windows動作中にCBMLX2を取り外すことはできません。**
- **省電力機能には対応していません。**
- **起動時のメモリチェック画面、Windowsロゴ画面、およびDOSモードのフルスクリーン表示はできません。**
- **デバイスマネージャの[更新]ボタンは使用できません。（クリックするとハングアップします。）**

● CBMLX2使用中止

本製品を使用しません。（本製品がパソコンに接続されていても、接続されていないのと同じ状態になります。）

● ディスプレイセレクトの使い方

ディスプレイセレクト（起動方法は58ページ【ディスプレイセレクトの起動方法】を参照）では、4つのモードを設定できます。用途に合ったモードを設定してください。各モードの設定方法は、設定するモードや、OS環境により異なります。下記に従って正しく設定してください。



● Windows Me/98の場合の設定方法

ミラーディスプレイモード ⇒ マルチモニタモード

[マルチモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

ミラーディスプレイモード ⇒ プライマリモニタモード

1 [プライマリモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

2 [新しい設定を有効にするには・・・]で[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動します。

ミラーディスプレイモード ⇒ 使用中止

[CBMLX2使用中止]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

マルチモニタモード ⇒ ミラーディスプレイモード

[ミラーディスプレイモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

（タスクトレーにGAアイコンが表示されます。）

マルチモニタモード ⇒ プライマリモニタモード

1 [プライマリモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

2 [新しい設定を有効にするには・・・]で[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動します。

マルチモニタモード ⇒ 使用中止

[CBMLX2使用中止]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

プライマリモニタモード ⇒ ミラーディスプレイモード

1. [CBMLX2使用中止]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。
2. [新しい設定を有効にするには・・・]で[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動します。
3. ディスプレイセレクトを起動します。（58ページ【ディスプレイセレクトの起動方法】を参照）
4. [ミラーディスプレイモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。（タスクトレーにGAアイコンが表示されます。）

プライマリモニタモード ⇒ マルチモニタモード

1. [CBMLX2使用中止]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。
2. [新しい設定を有効にするには・・・]で[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動します。
3. ディスプレイセレクトを起動します。（58ページ【ディスプレイセレクトの起動方法】を参照）
4. [マルチモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

プライマリモニタモード ⇒ 使用中止

1. [CBMLX2使用中止]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。
2. [新しい設定を有効にするには・・・]で[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動します。

使用中止 ⇒ ミラーディスプレイモード

[ミラーディスプレイモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

使用中止 ⇒マルチモニタモード

[マルチモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

使用中止 ⇒ プライマリモニタモード

1. [プライマリモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。
2. [新しい設定を有効にするには・・・]で[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動します。

● Windows 2000の場合の設定方法

ミラーディスプレイモード ⇒ マルチモニタモード

1 [マルチモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

2 [新しい設定を有効にするには・・・]で[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動します。

ミラーディスプレイモード ⇒ プライマリモニタモード

1 [プライマリモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

2 [新しい設定を有効にするには・・・]で[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動します。

ミラーディスプレイモード ⇒ 使用中止

1 [CBMLX2使用中止]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

2 [新しい設定を有効にするには・・・]で[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動します。

マルチモニタモード ⇒ ミラーディスプレイモード

1 [ミラーディスプレイモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

2 Windowsを再起動します。

マルチモニタモード ⇒ プライマリモニタモード

[プライマリモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

マルチモニタモード ⇒ 使用中止

[CBMLX2使用中止]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

プライマリモニタモード ⇒ ミラーディスプレイモード

1 [ミラーディスプレイモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

2 [新しい設定を有効にするには・・・]で[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動します。

プライマリモニタモード ⇒ マルチモニタモード

[マルチモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

プライマリモニタモード ⇒ 使用中止

[CBMLX2使用中止]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

使用中止 ⇒ ミラーディスプレイモード

1 [ミラーディスプレイモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

2 [新しい設定を有効にするには・・・]で[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動します。

使用中止 ⇒ マルチモニタモード

[マルチモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

使用中止 ⇒プライマリモニタモード

[プライマリモニタモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

Windows 2000を**Administrator権限で起動していない場合**、**下記の設定はできません。**

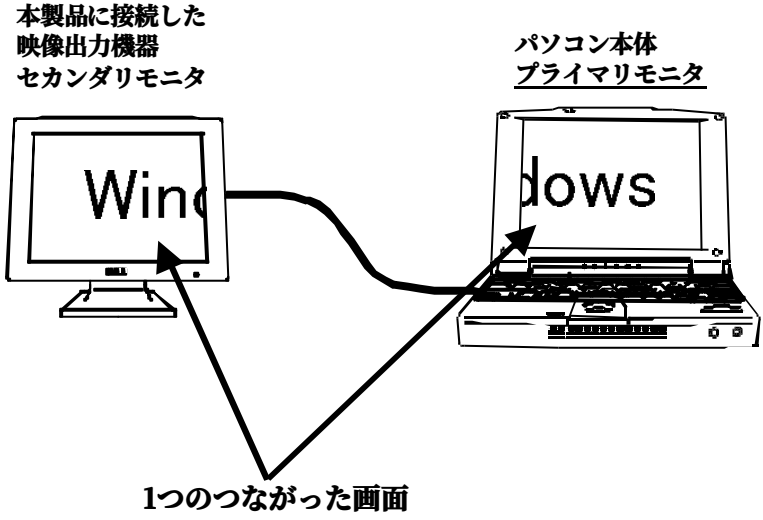
・ミラーディスプレイモードへの切り替え

・ミラーディスプレイモードから他のモードへの切り替え

2．セカンダリモニタとして表示

ここでは、Windows Me/98、およびWindows 2000のマルチモニタ機能を使って、本製品に接続した映像出力機器をセカンダリモニタとして表示する方法を説明します。パソコン本体の画面と隣り合う形で、1つの大きなデスクトップ画面を表示させます。

パソコン本体と本製品に接続した映像出力機器の両方に同じ画面を同時に表示する場合は、[ディスプレイセレクト]の[ミラーディスプレイモード]に設定してください。
59ページ【各モードの特徴】参照



● Windows Me/98の場合の設定方法

1　［画面のプロパティ］を起動します。

デスクトップ（壁紙など）を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

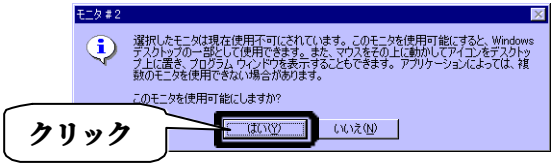
2　［設定］タブをクリックします。



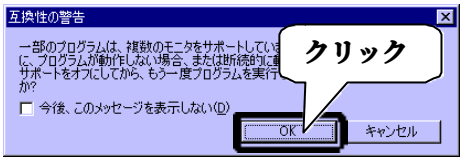
3　「セカンダリモニタ」をクリックします。



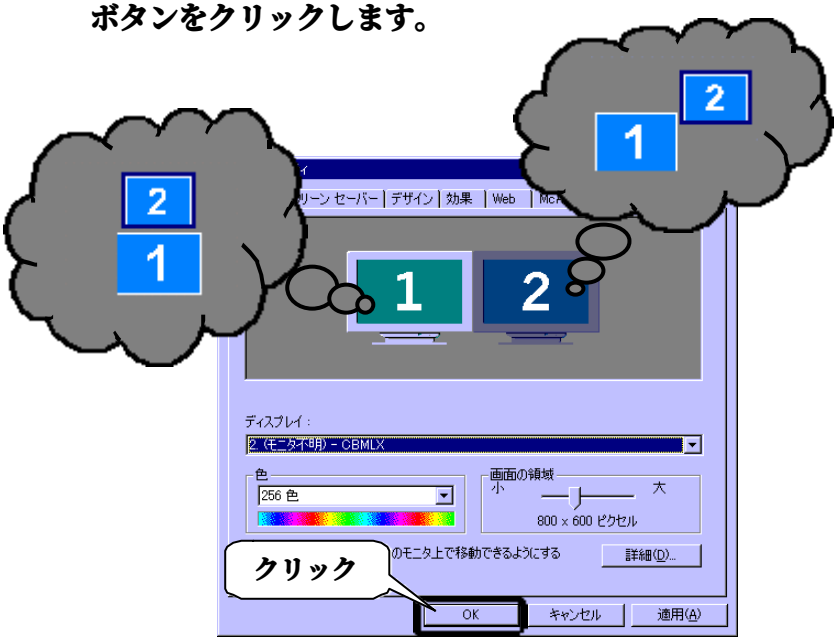
4　［はい］ボタンをクリックします。



5　［OK］ボタンをクリックします。



6　モニタの図をドラッグし、好きな配置にならべたら、[OK]ボタンをクリックします。



以上で設定は終わりです。

この後、もう一度画面のプロパティを起動すると［ディスプレイエフェクト］タブが表示されます。解像度、色数などの設定はディスプレイエフェクトにて行ってください。詳細については【第7章　ディスプレイエフェクトを使おう】（71ページ）をご覧ください。

● Windows 2000の場合の設定方法

1 **［画面のプロパティ］を起動します。**

デスクトップ（壁紙など）を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

2 **［設定］タブをクリックします。**

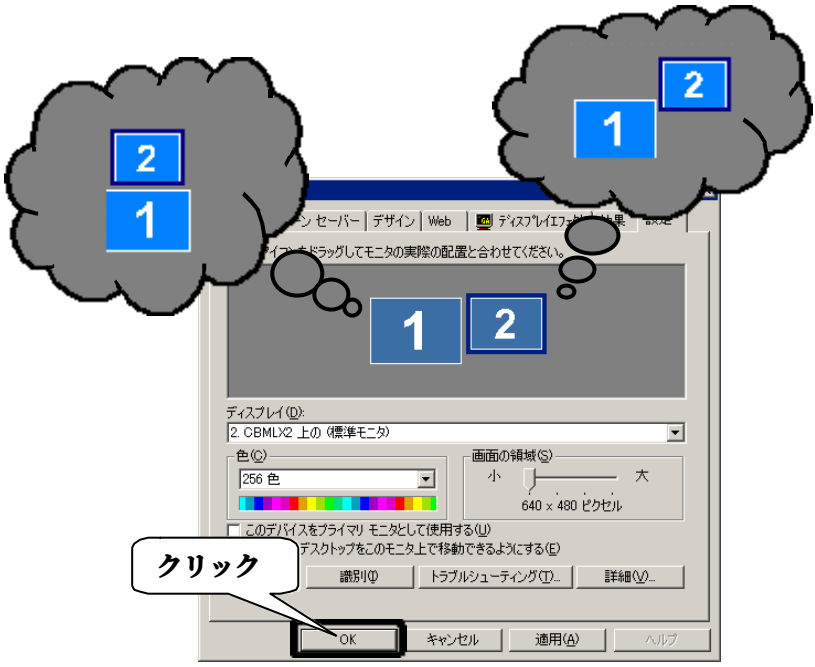


3 **[セカンダリモニタ]をクリックします。**



4 **[Windowsデスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする]をチェックし、[適用]ボタンをクリックします。**

5　モニタの図をドラッグし、好きな配置にならべたら、[OK]ボタンをクリックします。



以上で設定は完了です。

この後、もう一度画面のプロパティを起動すると［ディスプレイエフェクト］タブが表示されます。
詳細については【第7章　ディスプレイエフェクトを使おう】（次ページ）をご覧ください。

第7章

ディスプレイエフェクトを使おう

この章では、本製品を活用するためのツールである「ディスプレイエフェクト」について説明します。

1．ディスプレイエフェクトとは 72ページ

ディスプレイエフェクトの概要について説明します。

2．機能の概要 74ページ

ディスプレイエフェクトの各種機能について説明します。

1．ディスプレイエフェクトとは

ディスプレイエフェクトには、CBMLX2を活用するための様々なツールが入っています。ぜひ、活用して快適な作業環境を実現してください。

ディスプレイエフェクトをご使用になる場合は、予めDirectX6以降をインストールしておいてください。DirectX6以降がインストールされていない場合、描画速度が低下する場合があります。また、その場合DirectXは使用できません。
CBMLX2サポートソフト内にDirectX7が収録されていますのでこちらをご使用ください。（4ページ参照）

● ディスプレイエフェクト起動方法

Windowsを起動後、壁紙を右クリックし、[プロパティ]→[画面のプロパティ]の[ディスプレイエフェクト]タブをクリックします。



・Windows 2000の場合は、[解像度変更]タブはありません。かわりに[バージョン情報]タブがあります。
解像度、および色数の変更は[画面のプロパティ]→[設定]で行ってください。



75ページ
④参照

75ページ
⑫参照

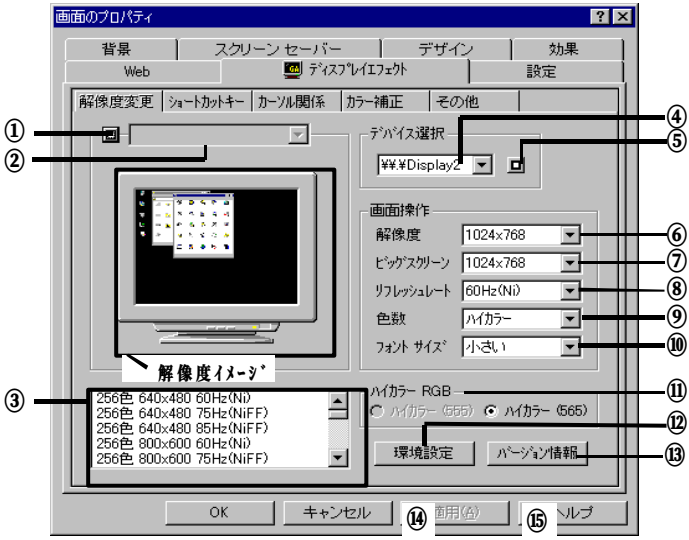
・ディスプレイエフェクトで何らかの設定変更を行った際は、その設定を有効にするため、［適用］ボタンもしくは［OK］ボタンをクリックしてください。

2．機能の概要

※詳細については「ヘルプ」を参照してください。

● 解像度変更

解像度、色数、フォントサイズなどの変更を行います。



番号	名称	機能
①	解像度ｲﾒｰｼﾞ切替ボタン	[ディスプレイのイメージ]と[解像度とビッグスクリーンサイズのイメージ]の切替を行います。
②	ﾓﾆﾀ形状選択	本製品では設定できません。
③	解像度一覧	設定可能な色数、解像度、リフレッシュレートの組み合わせを表示します。ここでクリックした解像度により、右の[画面操作]の設定内容が変更されます。
④	ﾃﾞﾊﾞｲｽ選択	設定するデバイスを選択します。
⑤	ﾃﾞﾊﾞｲｽ確認	[デバイス選択]で設定されているデバイスに、現在の情報を表示します。
⑥	解像度	実際にディスプレイに表示される、解像度のサイズを設定します。そのサイズでの大まかなイメージは、左上の解像度イメージでつかめます。
⑦	ﾋﾞｯｸﾞｽｸﾘｰﾝ	Windowsで使用するデスクトップのサイズを設定します。 ここでは、解像度よりも大きいサイズを設定できます。 画面外の領域については、スクロールを行うことでディスプレイに表示できます。解像度とビッグスクリーンの比率は、解像度イメージ切替ボタンで確認することができます。
⑧	ﾘﾌﾚｯｼｭﾚｰﾄ	各解像度でのリフレッシュレートを設定します。 デジタル液晶ディスプレイでは60Hz固定となります。
⑨	色数	Windowsで使用する色数の設定を行います。
⑩	ﾌｫﾝﾄ ｻｲｽﾞ	システムフォントサイズの設定を行います。
⑪	ﾊｲｶﾗｰRGB	ハイカラー時の色数を設定します。 ただし、本製品では、ハイカラー（565）の65,536色表示固定です。
⑫	環境設定ボタン	[環境設定]画面が表示され、ディスプレイエフェクトに関するさまざまな設定が行えます。（77ページ参照）
⑬	ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ情報ボタン	[バージョン情報]画面が表示され、ディスプレイエフェクトのバージョンの他に、ドライバに関する情報が表示されます。（79ページ参照）
⑭	適用ボタン	解像度を変更後は必ずこのボタンをクリックしてください。
⑮	ヘルプボタン	ディスプレイエフェクトの詳しい説明が表示されます。

・[解像度]、[リフレッシュレート]は必ずCRTおよびLCD（液晶ディスプレイ）の取扱説明書を参照し、表示可能な値に設定してください。

・解像度を変更した際、画面が乱れたり表示されなくなった場合は、キーボードの「ESC」キーを押してください。以前の解像度に戻すことができます。
(変更時は必ず[適用]ボタンをクリックしてください。)
この場合、ご使用のディスプレイが設定した解像度(リフレッシュレート)にあわないものと考えられます。この解像度には設定しないでください。

・ディスプレイエフェクト(ドライバ)のインストール後は、タスクトレーに[ディスプレイエフェクト起動]アイコンは常駐していません。
ショートカットキーなどを使う場合は、次ページ[環境設定]の[起動時に常駐する]または、[タスクトレーに追加する]をチェックしてください。このアイコンをクリックするとディスプレイエフェクトが開きます。



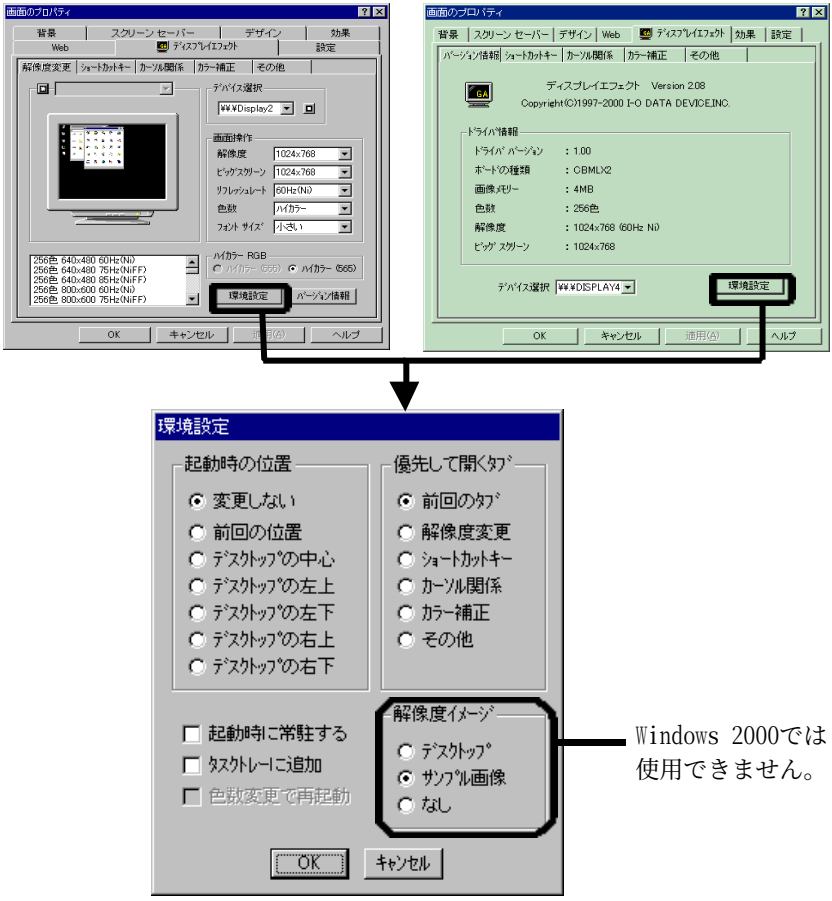
[ディスプレイエフェクト起動]
アイコン

● 環境設定ボタン

[環境設定]ボタンで[環境設定]画面が表示されます。

[環境設定]画面では、[ディスプレイエフェクト]の設定が行えます。

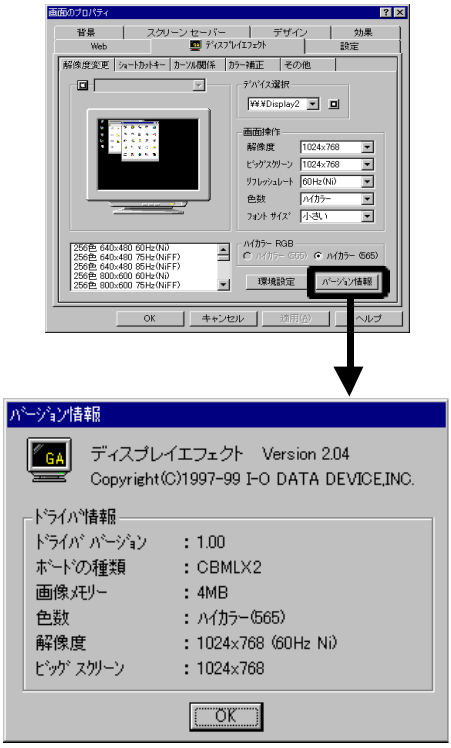
▼Windows Me/98の場合　　▼Windows 2000の場合



名称	機能
起動時の位置	タスクトレーの[ディスプレイエフェクト起動]アイコンを左クリックした時に起動される、[画面のプロパティ]の位置を指定できます。
優先して開くﾀﾌﾞ	タスクトレーの[ディスプレイエフェクト起動]アイコンを左クリックした時に、開くタブを指定できます。
起動時に常駐する	チェックすると、[ディスプレイエフェクト起動]アイコンがWindows起動時にタスクトレーに常駐します。
ﾀｽｸﾄﾚｰに追加	チェックすると、その時点で[ディスプレイエフェクト起動]アイコンがタスクトレーに常駐します。チェックを外すと常駐を解除します。
色数変更で再起動	本製品では設定できません。
解像度ｲﾒｰｼﾞ	[解像度変更]タブのディスプレイのイメージ表示に関する設定を行います。Windows 2000では使用できません。 **ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟ**・・・・イメージ表示は実際のデスクトップの画面イメージを縮小して表示します。これが一番イメージをつかみやすいのですが、イメージ用にメモリを大量に使いますので、メインメモリの少ないパソコンでは、メモリスワップが発生して非常に遅くなります。 **ｻﾝﾌﾟﾙ画像** ・・・予め用意したイメージを縮小して表示します。これでもある程度のイメージはつかめます。デスクトップよりも高速です。 **なし** ・・・・・・イメージ表示をしません。イメージはつかめませんが、これが一番高速です。

● バージョン情報ボタン

［バージョン情報］ボタンで[バージョン情報]画面が表示されます。
ディスプレイエフェクトのバージョンやドライバに関する情報が表示されます

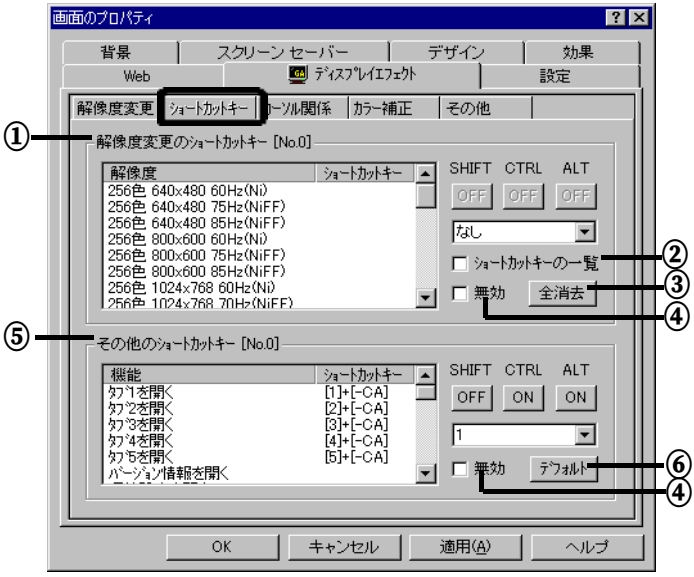


表示項目	意味
ﾄﾞﾗｲﾊﾞﾊﾞｰｼﾞｮﾝ	ディスプレイドライバのバージョンです。
ﾎﾞｰﾄﾞの種類	使用しているグラフィックボードの名称です。
画像ﾒﾓﾘｰ	グラフィックボードの画像メモリのサイズです。
色数	現在の色数です。
解像度	現在の解像度です。
ﾋﾞｯｸﾞ ｽｸﾘｰﾝ	現在のビッグスクリーンのサイズです。

● ショートカットキー

ディスプレイエフェクトの機能に対するショートカットキーの設定を行います。

・タスクトレーに[ディスプレイエフェクト起動]アイコンがない場合や[画面のプロパティ]が開いている時は、ショートカットキーは使用できません。
ショートカットキーを使用する場合は、[解像度変更]タブで[ディスプレイエフェクト起動]アイコンをタスクトレイに追加(77ページ参照)してください。
・他のアプリケーションのショートカットキーと競合しないように設定してください。

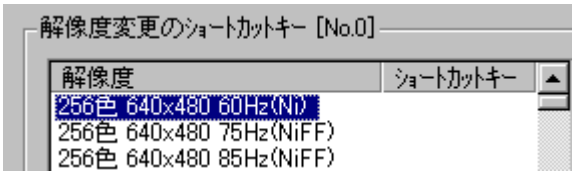


番号	名称	機能
①	解像度変更のｼｮｰﾄｶｯﾄｷｰ	解像度の変更に対するショートカットキーの設定を行います。ショートカットキーで、ダイレクトに解像度が切り替わります。設定方法は次ページの【ショートカットキーの設定例】をご覧ください。
②	ｼｮｰﾄｶｯﾄｷｰの一覧	ショートカットキーを設定した解像度のみを表示したいときにチェックします。
③	全消去ﾎﾞﾀﾝ	解像度変更のショートカットキーの設定を全て解除します。
④	無効	[解像度変更のショートカットキー]または[その他のショートカットキー]を、一時的に無効にしたいときにチェックします。
⑤	その他のｼｮｰﾄｶｯﾄｷｰ	ディスプレイエフェクトのタブシートのオープンや、各機能の実行に対応するショートカットキーの設定を行います。
⑥	ﾃﾞﾌｫﾙﾄﾎﾞﾀﾝ	その他のショートカットキーの設定を初期設定にします。

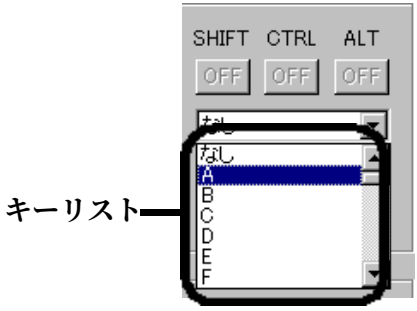
● ショートカットキーの設定例

ここでは、「256色 640×480 60Hz(Ni)」に［SHIFT］＋［A］キーを設定する方法を説明します。

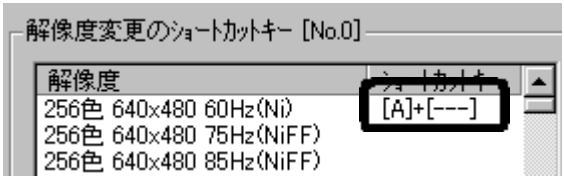
1 設定したい解像度を選択します。



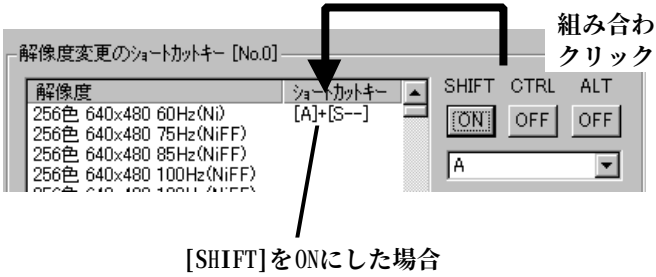
2 キーリストから対応させたいキーを選択します。



3 キーを選択すると、選択した解像度の横に選択したキーが表示されます。

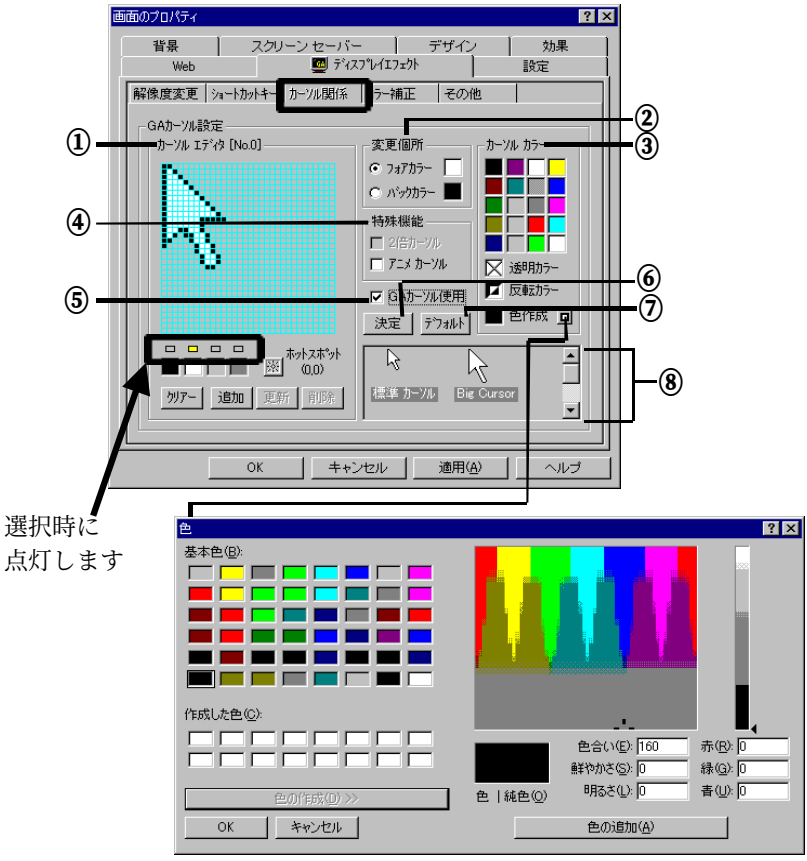


4 「SHIFT」キーや「CTRL」キーまたは「ALT」キーを押しながら、あるキーを押した時に解像度を変えるようにすることもできます。



● カーソル関係

カーソルの色・形状についての設定を行い、カーソルの色、形状をご自分でお作りいただけます。



色の設定ダイアログは、カーソル関係タブで色作成ボタンを押したときに表示されます。このダイアログで、新たなカーソルカラーを作成します。使用方法はWindows標準のものと同じです。

番号	名称	機能
①	ｶｰｿﾙｴﾃﾞｨﾀ	カーソルの形状を編集します。 ・下記の4つのボックスで使用する色を選択します。 黒のボックス・・・・・・・・・バックカラー 白のボックス・・・・・・・・・フォアカラー 明るいグレーのボックス・・・・透明色 暗いグレーのボックス・・・・・反転 ・ホットスポット（カーソルの指し示す位置）の設定は、ホットスポットのボタンをクリックするとホットスポット設定モードになるので、それから設定したい座標でクリックしてください。 ｸﾘｱｰﾎﾞﾀﾝ・・・選択されている色ですべてを塗りつぶします。 追加ﾎﾞﾀﾝ・・・右下のリストに現在の形状を追加することができます。実際にカーソルに反映させたいときは、[決定]ボタンをクリックしてください。 更新ﾎﾞﾀﾝ・・・編集するときに右下のリストから選択したカーソルに上書きします。 削除ﾎﾞﾀﾝ・・・右下のリストで選択したカーソルをリストから削除します。
②	変更個所	カーソルカラーで変更する場所を選びます。
③	ｶｰｿﾙｶﾗｰ	カーソルのフォアカラー（フォアグランドカラー）、バックカラー（バックグランドカラー）の色を設定します。各色のボックスを選択すれば、その色に変更します。 透明カラー、反転カラーは、フォアカラーやバックカラーを透明、反転にします。 ここにある色以外の色を設定したいときは、[色作成]ボタンで色を作成して、左のボックスを選択してください。
④	特殊機能	2倍ｶｰｿﾙ・・・本製品では設定できません。 ｱﾆﾒｶｰｿﾙ・・・カーソルのフォアカラー、バックカラーの色をリアルタイムに変え続けます。

番号	名称	機能
⑤	GAｶｰｿﾙ使用	通常はチェックされていません。 ・チェック無しの場合は、カーソルカラー、特殊機能やカーソル形状の変更をして、[更新]、[OK]を実行しても、次回立ち上げ時（「ディスプレイエフェクト」や「ディスプレイエフェクト起動アイコン」の起動時）には影響しません。 ・チェックありの場合は、「ディスプレイエフェクト」や「ディスプレイエフェクト起動」アイコン起動時に強制的にGAカーソルにします。
⑥	決定ﾎﾞﾀﾝ	①[カーソルエディタ]の内容を、実際にカーソルに反映させたいときは、このボタンをクリックします。 このボタンは、一時的にカーソル形状を変更しますが、「ディスプレイエフェクト」を終了すると無効になります。変更内容を保存したい場合は、①[カーソルエディタ]の[追加]または[更新]で行ってください。
⑦	ﾃﾞﾌｫﾙﾄﾎﾞﾀﾝ	②[変更個所]、③[カーソルカラー]、④[特殊機能]の設定を初期設定にします。
⑧	ｶｰｿﾙﾘｽﾄ	①[カーソルエディタ]で編集したカーソルを選べます。 名前をクリックすれば、名前を変更できます。

● カラー補正

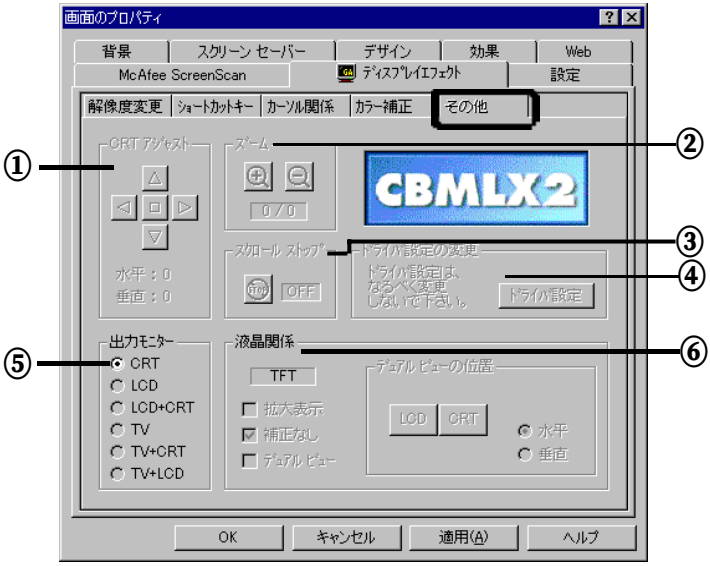
ディスプレイに表示する色の調整を行います。
このメニューは、使用するディスプレイによって表示特性が異なるため、それを吸収すること、および画面と印刷物の色合いの違いを調整することを目的としています。



256色でのみ上記④[オプション]での[グレースケール]を選択できます。

番号	名称	機能
①	補正	カラー補正を行う対象を選択します。 本製品では、[画面]しか選択できません。
②	ｶﾗｰ	5種類まで登録できます。
③	ｸﾞﾗﾌ	赤、緑、青それぞれのバイアス・ゲイン・ガンマ補正の設定の結果が表示されます。 横の目盛りは色の入力、縦の目盛りは色の出力を表わします。グラフのバックの色は、下の4つのボックスをクリックすると変更できます。
④	ｵﾌﾟｼｮﾝ	範囲拡大・・・バイアス/ゲイン/ガンマ補正の設定範囲を広げます。 ｸﾞﾚｰｽｹｰﾙ・・・色の表示をモノクロ256階調にします。 反転・・・・・現在の色の調整をすべて反転させます。 ※範囲拡大を使用している時のみ可 ﾃﾞﾌｫﾙﾄ・・・・バイアス/ゲイン/ガンマ補正の値を初期設定に戻します。
⑤	ﾊﾞｲｱｽ	画面の明るさを調整します。
⑥	ｹﾞｲﾝ	コントラストを調整します。 コントラストの高い画像は、白黒タイルの床のようにとてもはっきりした感じになります。コントラストの低い画像は、霧の中の風景のようにぼやけて色褪せた感じになります。
⑦	ｶﾞﾝﾏ補正	画面の明るさの中間を変更できます。

● その他

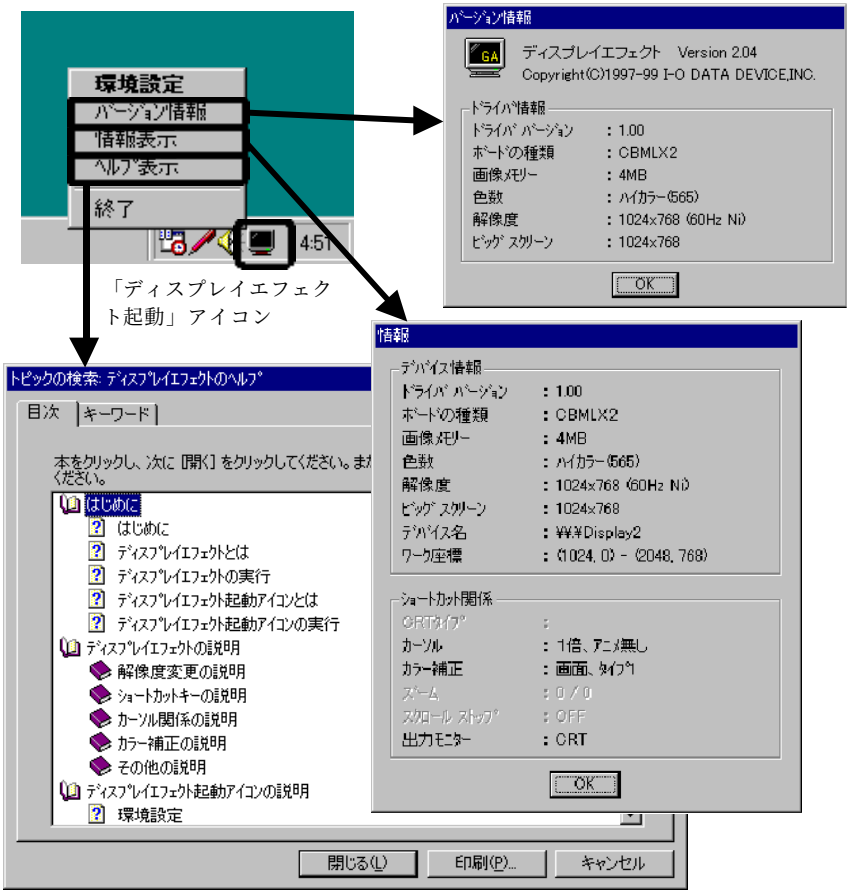


番号	名称	機能
①	CRTｱｼﾞｬｽﾄ または LCDｱｼﾞｬｽﾄ	本製品では設定できません。
②	ｽﾞｰﾑ	本製品では設定できません。
③	ｽｸﾛｰﾙ ｽﾄｯﾌﾟ	本製品では設定できません。
④	ﾄﾞﾗｲﾊﾞ設定の変更	本製品では設定できません。

番号	名称	機能
⑤	出力ﾓﾆﾀｰ	CRT・・・・CRTディスプレイのみに映像が出力されます。 アナログRGB用ケーブル接続時に選択可能です。 LCD・・・・液晶ディスプレイのみに映像が出力されます。 デジタル用ケーブル接続時に選択可能です。 LCD+CRT・・本製品では設定できません。 TV ・・・・TVのみに映像が出力されます。 付属のビデオ・Sビデオ用ケーブル接続時に選択可能です。 TV+CRT ・・本製品では設定できません。 TV+LCD ・・本製品では設定できません。
⑥	液晶関係	本製品では設定できません。

● タスクトレーの[ディスプレイエフェクト起動]アイコン

タスクトレーの［ディスプレイエフェクト起動］アイコンを右クリックすると、メニューが表示されます。左クリックすると、ディスプレイエフェクトが起動します。



項目	機能
環境設定	環境設定ダイアログ（77ページ参照）が表示されます。
ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ情報	［ディスプレイエフェクト起動］のバージョン情報ダイアログが表示されます。［ディスプレイエフェクト起動］のバージョンや、ドライバに関する情報を表示します。
情報表示	現在選択中のデバイス情報とショートカットキーに関する情報をリアルタイムに表示します。
ﾍﾙﾌﾟ表示	ヘルプが表示されます。
終了	［ディスプレイエフェクト起動］が終了します。

ふろく

必要に応じてお読みください。

困った時には 94ページ

本製品のご使用中、異常があった場合にご覧ください。

用語解説 99ページ

仕様 102ページ

困った時には

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。
弊社ホームページ（http://www.iodata.co.jp/support/qanda/index.htm）でも随時最新の情報をご提供しております。こちらもご利用ください。

状態	参照ページ
画面の色がいつもと違う	９５
解像度を設定する時に[画面のプロパティ]の[画面の領域]の項目で、高い解像度を選択できない	９５
ビデオ出力がされない	９５
画面が乱れて完全に見えなくなった	９５
インストールはできたが、CBMLX2をセカンダリとして使用できない	９６
アプリケーションで、ショートカットを行うと画面が乱れたり、異常な動作をしたりする	９６
インストールできない（[新しいハードウェアの追加ウィザード]画面が表示されない）	９６
動作が不安定になる	９７
レジューム機能（省電力機能）を使用すると、画面が復帰しなくなった	９７
正しくインストールされているのに、[ディスプレイエフェクト]タブが表示されない	９７
マルチモニタモードでWindowsを起動すると、デスクトップ上のアイコン位置がずれる	９８
本製品に接続したディスプレイに壁紙しか表示されない	９８
本製品に接続したディスプレイに表示がでない	９８

画面の色がいつもと違う

原因	接続ケーブルが外れかかっていたり、接続ケーブルに異常のある場合があります。
対処	接続ケーブルを確認してください。

解像度を設定する時に[画面のプロパティ]の[画面の領域]の項目で、高い解像度を選択できない

原因	正しいモニタが選択されていません。
対処	[画面のプロパティ]の[設定]タブで、ディスプレイの項目をCBMLX2に変更して、[詳細]→[モニタ]タブで［変更］ボタンをクリックし、画面の指示に従ってお使いのモニタに変更してください。

ビデオ出力がされない

原因	CBMLX2をパソコンに挿入した後で、またはパソコン起動後にケーブルを接続している。
対処	CBMLX2にビデオ・Sビデオ用ケーブルを接続した後に、CBMLX2をパソコンに挿入し、再起動してください。
対処	Windows Me/98の場合は、ディスプレイセレクト（57ページ【いろいろな表示方法】参照）で一旦[CBMLX2使用中止]にしてください。 プライマリモニタモードの場合は、再起動してください。

画面が乱れて完全に見えなくなった

原因	ご使用の出力モニタでは使用できない画面モードを選択している、またはドライバのインストールが正常に行われなかったことが考えられます。
対処	[プライマリモニタ]側で[画面のプロパティ]を起動し、[画面のプロパティ]の[設定]タブで、[セカンダリモニタ]の設定を使用可能な解像度に変更してください。

インストールはできたが、CBMLX2をセカンダリとして使用できない（Windows 98のみ）

原因	機種によっては本体のディスプレイアダプタのVGA BIOSのアドレスが通常とは異なるアドレスに配置されている場合があり、そのままではセカンダリモニタが使えないことがあります。 デバイスマネージャで本体のディスプレイアダプタのリソースでメモリの範囲に 000C0000-000Cxxxx（xxxxの部分は機種によって異なります）が含まれていない場合、VGA BIOSが通常とは異なるアドレスに配置されている可能性があります。
対処	CONFIG.SYS、もしくはSYSTEM.INIに以下を追加するとセカンダリモニタが使用できます。CONFIG.SYSファイルのEMM386.EXEにオプション X=C000-C7FF を以下の例の様に追記してください。 例） EMM386.EXE X=C000-C7FF CONFIG.SYSファイルにEMM386.EXEの記述が無い場合は、SYSTEM.INIファイルの［386Enh］の項目に以下の例の様に追記する必要があります。 例） ［386Enh］ EMMEXCLUDE=C000-C7FF

アプリケーションで、ショートカットを行うと画面が乱れたり、異常な動作をしたりする

原因	ショートカットの競合が考えられます。
対処	ショートカットの再度設定を行ってください。

インストールできない（[新しいハードウェアの追加ウィザード]画面が表示されない）

原因	CBMLX2が正しく取り付けられていない。
対処	パソコンの電源を切ります。 CBMLX2が確実に装着されているか確認してください。（【1.接続】12ページ参照）

動作が不安定になる

原因	電源容量が不足している可能性があります。
対処	パソコン本体の取扱説明書をご覧になり、最大供給電流を超えていないかどうかをご確認ください。最大供給電流を消費電流が超えている場合は、他のPCカードを外すなどして、電源容量を確保してください。また、バッテリ駆動している場合は、ACアダプタを接続し、電源容量を確保してください。

レジューム機能（省電力機能）を使用すると、画面が復帰しなくなった

原因	本製品は、パソコンメーカー独自のレジューム機能には対応していません。
対処	リセットボタンで再起動し、レジューム機能を無効にしてください。（詳細については、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。）

正しくインストールされているのに、[ディスプレイエフェクト]タブが表示されない

原因	[ディスプレイエフェクト]は再起動後に表示されます。
対処	マルチモニタモードにして、再起動してください。

原因	[ハードウェアアクセラレータ]が[最大]になっていない可能性があります。
対処	［画面のプロパティ］内の［設定］タブで、ディスプレイの項目をCBMLX2に変更し、［詳細］ボタンをクリックします。［パフォーマンス］タブをクリックし、[ハードウェアアクセラレータ]を[最大]にしてください。

マルチモニタモードでWindowsを起動すると、デスクトップ上のアイコン位置がずれる

原因	Windowsのマルチモニタ機能ではセカンダリモニタを、プライマリモニタに対して左側や上側に配置すると、アイコンの整列が正しく行われない場合があります。 これはWindowsの仕様によるものです。

本製品に接続したディスプレイに壁紙しか表示されない

原因	セカンダリモニタに設定されているためと考えられます。
対処	57ページ【いろいろな表示方法】をご参考の上、ご希望にあった表示モードを設定してください。

本製品に接続したディスプレイに表示がでない

原因	例えばミラーディスプレイモード時に、ミラーディスプレイモードでは本来表示できない解像度を設定すると、一時停止の状態になってしまいます。また、パソコンを再起動した際にも一時停止の状態になります。
対処	ディスプレイセレクトでご希望のモードを正しく設定しなおしてください。

用語解説

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)

米マイクロソフト社、米インテル社、東芝の3社が提唱しているパソコンの省電力モードなどの電力制御や、パソコンに接続される家庭電化製品の電源の制御などを、OS(オペレーティング・システム)から行うことができる低消費電力機構の規格です。

CardBus

16ビットPCカード規格を32ビット仕様に拡張した規格。
最大132MB/Sの転送速度を可能とします。

DPMS(Display Power Management Signaling)

VESA(Video Electronics Standards Association)が策定した、ディスプレイの節電機構をパソコン本体側から制御する為の規格。省電力機能は、ディスプレイのHSYNC、VSYNC（水平/垂直走査周波数）を制御することでReady, Standby, Suspend,Offの４つの節電レベルを可能とします。

DFP規格

デジタル液晶モニタ用のVESAで定められた標準インターフェイス規格。
IBM、NEC、富士通、コンパック等（順不同）がパソコン本体および液晶ディスプレイに採用しています。（1999年7月現在）

DVI規格(Digital Video Interface)

デジタル液晶モニター用のDDWGで定められた標準インターフェイス規格。
富士通、コンパック、IBM等（順不同）がパソコン本体および液晶ディスプレイに採用しています。

TMDS(Transition Minimized Differential Signaling)

Silicon Image社が開発したPanelLink Technologyに基づいたホストPCとデジタルモニタとの間の画像データのインターフェイスに関する規格です。

アナログ入出力(液晶パネル製品での)

アナログデータをコンピュータから入力したり、出力したりすることです。
コンピュータ内では、デジタルデータしか扱いませんが、CRTディスプレイ等では、アナログデータを扱うため、D/A及びA/Dコンバータが必要となります。

インタレース表示

まず、画面の左上から奇数ラインだけを走査し、再び左上に戻り、今度は偶数ラインを走査するという走査方式です。１画面表示するのに電子ビームが２回走査する必要があります。この走査方式は、走査周波数が低いのでディスプレイの種類により画面がちらつく場合があります。チラツキは垂直解像度が高くなれば、よけいに目立ちますので、チラツキが多い場合は解像度を低くするか、ノンインタレースフリッカーフリー表示かノンインタレース表示を選びます。
ちなみに家庭用テレビもインタレース表示ですが、動画が中心となるためチラツキがあまり気にならないのです。

走査周波数

ディスプレイはドットの集まりです。ディスプレイは左上から右下に向かって電子ビームで必要なドットを光らせて画像を表示しています。「走査する」とは、電子ビームが動く、つまり、画像が表示されるという意味です。走査周波数とは、ちょうど電子ビームの動く速さを示す「メトロノーム」のようなもので、走査周波数が高いほど電子ビームが速く動く、つまり画像表示が速いということになります。走査周波数を低くすると画面のちらつきが目立つようになります。逆に走査周波数を高くすると画面のチラツキは目立たなくなります。

ドット

文字や図形を表現する基本単位となる点のこと。ピクセルとも呼ばれます。
パソコンで扱う文字や図形は、このドットの集まりで表現されます。

ノンインタレース表示

画面の左上から右下まで１ラインごとに全ラインを１度に走査する走査方式です。１画面表示するのに１回の走査ですむ代わり、電子ビームを速く動かす必要があります。そのため、インタレース表示より高い周波数が必要になりますが、インタレース表示よりはチラツキが少なくなります。

ノンインタレースフリッカーフリー表示

走査方法はノンインタレース表示と同じですが、走査周波数をさらに高くして発生するフリッカーを最小限に抑えて、快適な画面表示を行う方式です。ご使用のディスプレイがこの方式で表示可能なら、この方式を選択しましょう。

フリッカー

画面のチラツキをいいます。画面上のあるドットを光らせたとします。次にそのドットを光らせるまで光っていてほしいのに、その光が消えてしまったとします。すると、「光らせる→光らせる＝ずっと光っている」となるところが、「光らせる→消える→光らせる」となり、点滅したような状態になります。この点滅が、人間の目から見るとちらついている、つまり、フリッカーが発生しているということになります。

仕様

ここではハードウェアの仕様について記述します。

型番		CBMLX2
アナログRGB信号		アナログRGB 0.7Vp-p※ ※ 使用するパソコンによっては0.7Vp-pより低い信号レベルになることがあります。 入力インピーダンス 75Ω
NTSC信号		コンポジット出力およびS端子出力　1Vp-p 入力インピーダンス　75Ω
同期信号		TTLレベル（負極性/正極性）
デジタルRGB信号		デジタルRGB信号 0.5V p-p 入力インピーダンス 50Ω
使用する割り込み（IRQ）		PnPにより割り当てられた任意のIRQを1つ使用
使用するI/Oポート		3Cxh,3Dxh　xは0～F
使用するメモリウィンドウ		16Mバイト可変（PnPより割り当てられたアドレス）
動作環境	電源	＋3.3V ±5%
	温度	＋0℃～＋40℃
	湿度	20%～80%（結露なきこと）
	消費電流	580mA（最大）
外形寸法		85.5(D) x 54.0(W) x 5.00(H)(mm)
質量		35g（ケーブル含まず）

●アナログRGB解像度

	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)	同時表示色数		
			256色	ハイカラー	フルカラー
640×480	31	60	○	○	○
	38	75	○	○	○
	43	85	○	○	○
800×600	38	60	○	○	○
	47	75	○	○	○
	54	85	○	○	○
1024×768	48	60	○	○	○
	56	70	○	○	○
	60	75	○	○	○
1280×1024	63	60	○	○	○

○:表示可能

●TV OUT解像度

	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)	同時表示色数		
			256色	ハイカラー	フルカラー
640×480	15.7	30	○	○	○

○:表示可能

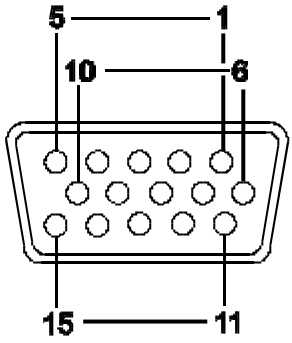
●デジタル解像度

	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)	同時表示色数		
			256色	ハイカラー	フルカラー※
640×480	31	60	○	○	○
800×600	38	60	○	○	○
1024×768	48	60	○	○	○
1280×1024	63	60	○	○	○

○:表示可能

※ ディザリング使用

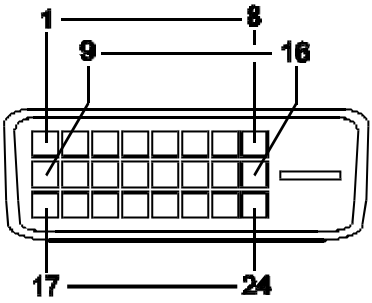
●アナログコネクタ形状・ピンアサイン



D-sub15ピンコネクタ

端子番号	信号名	方向	説明
1	AR	出力	アナログ赤色映像信号
2	AG	出力	アナログ緑色映像信号
3	AB	出力	アナログ青色映像信号
4	NC	-	未接続
5	GND	-	グラウンド
6	GND	-	アナログ赤色映像信号グラウンド
7	GND	-	アナログ緑色映像信号グラウンド
8	GND	-	アナログ青色映像信号グラウンド
9	+3.3V	-	電源
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	DDC DATA	入出力	シリアルデータ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	DDC CLK	入力	シリアルデータクロック

●デジタルコネクタ形状・ピンアサイン



DVI-Dコネクタ

端子番号	信号名	方向	説明
1	TX2-	出力	T.M.D.S.データ2- (R)
2	TX2+	出力	T.M.D.S.データ2+ (R)
3	TX2 Shield	-	T.M.D.S.データ2シールド
4	NC	-	未接続
5	NC	-	未接続
6	DDC CLK	入力	シリアルデータクロック
7	DDC DATA	入出力	シリアルデータ
8	NC	-	未接続
9	TX1-	出力	T.M.D.S.データ1- (G)
10	TX1+	出力	T.M.D.S.データ1+ (G)
11	TX1 Shield	-	T.M.D.S.データ1シールド
12	NC	-	未接続
13	NC	-	未接続
14	+3.3V	-	電源
15	GND	-	グランド
16	SENS	入力	ホットプラグ用信号
17	TX0-	出力	T.M.D.S.データ0- (B)
18	TX0+	出力	T.M.D.S.データ0+ (B)
19	TX0 Shield	-	T.M.D.S.データ0シールド
20	NC	-	未接続
21	NC	-	未接続
22	TXC Shield	-	T.M.D.S.クロックシールド
23	TXC+	出力	T.M.D.S. クロック+
24	TXC-	出力	T.M.D.S. クロック-

サポートセンターへのお問い合わせ

弊社サポートセンターへのお問い合わせはユーザー登録された方に限ります。

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及び FAX 番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアル No.
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用の OS とアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.co.jp/support/
「サポートセンターお問い合わせ」内のフォームを使用して
E_Mail をお送りください。
@nifty　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ (SIODATA) サポート会議室

■郵便

〒920-8513 石川県金沢市桜田町2 丁目84 番地 アイ・オー・データ第2 ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「CBMLX2」係　宛

■電話

電話番号　本社　076-260-3646
東京　03-3254-1036
受付時間　9:30 ～19:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

■FAX

FAX 番号　本社　076-260-3360
東京　03-3254-9055
宛先　株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「CBMLX2」係　宛

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

保証について

■保証期間

・保証期間は、お買い上げの日より１年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。お送りいただいた製品を検査後、有償となる場合のみ往復ハガキにて修理金額をご案内致しますので、修理するか否かをご検討の上、往復ハガキにご記入いただきご返送ください。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

・弊社が販売終了を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

■保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

・本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。

・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。

・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.co.jp/　→　「サポート・ライブラリ」
@nifty　アイ・オー・データステーション（IODATA）のライブラリ

■サービス窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2 丁目84 番地
アイ・オー・データ第2 ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「CBMLX2」　サービス窓口　宛

電話番号　076-260-3663

受付時間　9:30 ～12 :00　13:00 ～17:00　月～金曜日（祝祭日を除く）

ご注意

●オンラインによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。

●添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。

修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼いただくか、または下記修理品送付先までお送り下さい。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
  また、修理品のデータに関しましては保証いたしかねます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『サポートセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  - ◇ 保証書がない場合
  - ◇ 保証書の所定事項が未記入の場合
  - ◇ 逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  - ◇ 落雷などの事故による破損の場合
  - ◇ 本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

■修理品送付先

住所　〒920-8513
石川県金沢市桜田町2 丁目84 番地　アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「CBMLX2」 修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便または書留郵便小包でのご送付をお願いいたします。

■修理品納期問い合わせについて

受付窓口　「CBMLX2」 サービス窓口
電話番号　金沢 076-260-3663
受付時間　9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、こちらまでお問い合わせください。